

会計管理 A 4単位(1学期)
会計管理 B 4単位(1学期)

教授 太田 康広
准教授 村上 裕太郎
教授 山根 節

授業科目の内容:

ねらい: 経営の計数管理に不可欠な会計情報について、その基礎知識および分析能力を養う。このコースの約半分は企業会計のしくみを理解することにあて、約半分はこの分野の後続の諸科目で扱われるテーマの中から基礎的・一般的な部分を取り上げて、経営管理プロセスと会計情報との関係について見通しを得させる。

主な内容: 会計情報の役立ちとその限界、企業資本計算の構造、損益計算書と貸借対照表、複式簿記の仕組み、株式会社の財務諸表、棚卸資産会計、固定資産と減価償却、財務比率分析、連結会計の仕組み、基礎的な原価会計、利益と資金の計画および分析、意思決定のためのコスト・利益分析、業績管理のための会計、…など。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

「中間試験+期末試験の簿記問題+前半の授業参加点」50%、「期末試験の経営分析問題+期末レポート+後半の授業参加点」50%

テキスト(教科書):

山根 節著『新版ビジネス・アカウンティング』中央経済社

参考書:

山根 節著『山根教授のアバウトだけどリアルな会計ゼミ』中央経済社

経営科学 A 4単位(1学期)
経営科学 B 4単位(1学期)

准教授 安道 知寛
教授 林 高樹

授業科目の内容:

本科目では情報と論理的思考を駆使して経営課題の解決や意思決定の質を高める方法について学ぶ。具体的には、(i)意思決定を行う上でのベースとなる数値計算や定量分析の具体的な方法論、および合理的な意思決定の方法論を学習する講義や演習と、(ii)(i)の方法論を実際の意思決定へ応用するケース授業から構成される。本科目の前半においては、デシジョン・ツリー、確率シミュレーション、線形計画法などのオペレーションズ・リサーチや決定分析の方法論を用いた意思決定について学習する。PCの活用方法についても学ぶ。後半では、経済学・およびその周辺領域の概念・方法論に基づいた意思決定について検討する。さらに、現実の複雑な状況における意思決定を問う総合演習が行われる。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業への貢献度、個人・グループ課題、定期試験

テキスト(教科書):

宮川公男・野々山隆幸・佐藤藤『入門経営科学』、実教出版
中村力『定性分析』、日本実業出版社

担当教員から履修者へのコメント:

経営意思決定に関連した専門科目の導入部分を構成する

組織マネジメント A 4単位(1学期)
組織マネジメント B 4単位(1学期)

教授 浅川 和宏
教授 高木 晴夫

授業科目の内容:

企業経営の根幹をなすのは人と組織である。人と組織は経営の原点であり、それをいかにマネジメントするかが、どのような時代にあっても経営の基本課題として存在する。この授業では「組織における人間行動(マイクロ組織行動)」と「経営における組織と戦略(マクロ組織行動)」の2つの視点からこの課題に取り組む。これを通じて、組織のマネジメントの基本を知り、さらには個人の組織行動と組織の力学に影響を及ぼすことのできるスキルを獲得して、経営のための意思決定とアクションに用いることを学ぶ。

具体的な目標は、(1) マネジメントに必要な人と組織に関する基礎的な考え方を知り、人とともに働き、人をマネジメントするときに必ず発生する課題の構造を理解すること、(2) 組織上の問題の原因を分析する力と解決に必要な判断力・実行力を高めること、(3) 人と組織の活動成果についての考え方を身につけ、それを高める方法を学習すること、さらに(4) 経営組織の構造と組織過程に関するダイナミックな考え方を習得することである。

この授業のねらいは実践のための学習であり、単に知識を記憶することが目的ではない。学校の教室という制約はありながらも、できるかぎり経営の現実の考え方と判断、実際の行動のとりかたを重視していく。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

成績の評定は、中間試験と期末試験の得点をコアとして、この上に討論参加点を上積みして行う。2回の試験は筆記試験とし、授業で扱った内容に関連する論述問題を出题する。

討論参加点は、毎回のクラス討議にどれだけ参加したかによって、その質・量に応じて成績に上積みする。討論参加点は、あくまでもクラス討議への参加のインセンティブとするので、加点主義で運用する。発言内容によって減点することはない。

テキスト(教科書):

(1) 高橋伸夫(編)『超企業組織論』有斐閣2000
(2) S.P.ロビンズ『【新版】組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社2009

参考書:

適宜授業内で紹介する

マーケティング A 4単位(1学期)
マーケティング B 4単位(1学期)

教授 池尾 恭一
教授 井上 哲浩

授業科目の内容:

本科目では、マーケティング・ミックスを中心としたマーケティング・マネジメントを学習する。主な内容は次の通りである。

(1) 序論: マーケティング・コンセプトおよびマーケティング・マネジメントの領域と特徴に関する理解を図る。

(2) マーケティング環境分析: マーケティング意思決定の前提として、環境要因分析、なかでも消費者の行動分析と需要予測、並びに競争分析と当該企業の経営資源分析などを学ぶ。

(3) マーケティング各論: 企業が利用しうるマーケティング諸手段の分析・検討を行う。

イ) 製品政策 ロ) 価格政策 ハ) 流通チャネル政策 ニ) プロモーション政策

(4) マーケティング戦略形成: 企業目的の可及的達成を目標に、以上のマーケティング諸手段を、いかに総合的に組み合わせ、環境への創造的な適応を図るかを検討する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラス貢献点ならびに筆記試験

テキスト(教科書):

池尾恭一、青木幸弘、南千恵子、井上哲浩著『マーケティング』有斐閣、2010年。

担当教員から履修者へのコメント:

他の基礎科目とともに、ゼネラリスト養成の一翼を担うとともに、マーケティング関連専門科目の導入部分を構成する。

日本証券市場論 2単位(1学期)

石井久 KBS チェアシップ基金寄附講座

准教授 小幡 績
准教授 齋藤 卓爾
准教授 高橋 大志

授業科目の内容:

本年はKBS財務教員3名による授業となる。

小幡は、株式市場、国債市場を中心に投資家行動の分析を行い、理論と現実の動きについて、学生と共に毎回議論を行う。

また、新興国市場におけるケーススタディ（英語）も2ケース行う。齊藤は、理論および実証研究の方法などについて日本の株式市場のデータを中心に指導を行う。

高橋は、エージェントベースモデルなどのフレームワークを用い、現在の日本の金融市場について議論する。

複数のゲストスピーカーを迎え、現場の投資家ともディスカッションを行う。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

期末レポートを課す

テキスト(教科書):

なし

参考書:

未定

マネジリアル・エコノミクス 2単位(1学期)

教授 大林 厚臣

授業科目の内容:

経営戦略や企業組織に関する問題を経済学的に分析します。ここでの「経済学的」の意味は、基本的に、当事者にとっての選択肢のメリットとデメリットを比較して分析することと考えて下さい。教科書は「戦略の経済学」と「組織の経済学」の2冊を使いますが、どちらも通常は1冊でビジネススクールの1科目をカバーするものです。範囲に重複があるので2科目分まではいきませんが、欲張りな内容をカバーするつもりです。

あえて範囲を広げているのは、体系的知識を扱う限られた時間の中で、できるだけ多くの視点や理論を紹介しようという意図からです。ケースは何点か使いますが、割合としては講義とQ&Aが多くなります。ただし受講者に内容をすべて暗記してもらうことが目的ではありません。むしろ多くのトピックを紹介する中から、好奇心や探究心を深く刺激するトピックを見つけてもらうことに主眼を置いています。自分に合った「道具」や「考え方の枠組み」をみつけてもらうことです。そのため、個々のトピックが扱う問題意識や、トピック相互の位置づけなども重視して説明します。受講者は、たとえば修士論文に使えるような視点や技法を探すという気持ちでも構いません。受講者の論理的思考の「工具箱」が豊かになれば、科目の意図は満たされると考えています。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業中の貢献と期末レポートを、それぞれ50%のウエイトで評価します。レポートは授業で扱う視点や理論のどれかを選んで、自分の興味があるテーマに応用して書いてもらいます。

テキスト(教科書):

デイビッド・ベサンコ他、「戦略の経済学」、ダイヤモンド社。

ポール・ミルグロム他、「組織の経済学」、NTT出版。

参考書:

授業用のレジュメを配布します。このレジュメは毎回授業に持参してください。レジュメには参考文献も紹介してあります。

企業家論 2単位(1学期)

特任准教授(非常勤) キム ボンジン

授業科目の内容:

COURSE DESCRIPTION

Introduction to Entrepreneurship is designed to help students develop insights on what it takes to start a successful business. The primary focus is on opportunity identification and evaluation. This is accomplished by examining the characteristics of a good entrepreneurial opportunity and the steps required to get a business up and running.

COURSE OBJECTIVES

After completing Introduction to Entrepreneurship, you should be able to:

- Identify and pursue a business opportunity in either an independent or corporate setting.

- Define fundamental issues related to starting a business and learn how to assess the risks, problems, and rewards in the venture process.

- Bridge the gap between theory and practice.

- Transform ideas into action items and learn how to design and execute strategies.

- Think about how you can reach out to potential customers, partners, suppliers, and experts.

- Understand entrepreneurial financing options and how to determine capital requirements.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

COURSE GRADING CRITERIA/MAXIMUM POINTS

A. Final Test/200

B. Group Case Analysis/200

C. Class Participation/200

D. Business Plan and Presentation/400

Total maximum points/1000

テキスト(教科書):

REQUIRED MATERIALS

Spinelli, Stephen, Jr and Robert Adams. New Venture Creation 9th Ed. New York: McGraw-Hill/Irwin, 2012.

Harvard Business School cases (www.hbsp.harvard.edu) and articles

Other reading materials

質問・相談:

E-mail: bkim432@ewha.ac.kr

Office Hours: By appointment

流通論 2単位(1学期)

教授 余田 拓郎

授業科目の内容:

カタログ通販やインターネット、あるいはテレビショッピングなど近年新たな流通チャネルが拡大している。そのような流通環境をふまえた上で、我が国における流通に関する基本的問題について理論的検討を加えるとともに、流通の現場で行われている活動を概観し、そこにいかなる戦略的対応が可能であるかを考察する。具体的な授業形式としては、①講義および文献輪読などを通じて、流通にかかわる諸問題への代表的アプローチを理解した上で、②特定のテーマに沿って流通企業の見学や関係者のレクチャーを通じてその実際を調査・理解し、③理論との対応の中で特定の流通企業や業態に対する課題と解決策をグループ単位で提案し、実践的な理解を深めることを目指す予定である。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業への貢献とレポートによる

テキスト(教科書):

第1セッションで提示するが、受講者には関係箇所のコピーを配布する。

参考書:

石井・嶋口・栗木・余田(2004)『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社。

担当教員から履修者へのコメント:

基礎科目「マーケティング」の受講が前提となる

マーケティング戦略 2単位(1学期)

教授 余田 拓郎

授業科目の内容:

本コースは、フィールドワーク科目です。フィールドワーク科目であることを前提として受講してください。フィールドワークのテーマは、マーケティング戦略、事業戦略、およびプライシングや製品戦略などになります。

本コースでは、具体的な事例に基づいてマーケティング戦略や事業戦略を策定することをおして、現在進行する実務に直結した意思決定を行うことにはねらいがあります。受講生自身の意思決定能力について、「腕試しする」というスタンスで受講すること期待します。

本コースは、前半をケースによるマーケティングのフレームワークに関する討論と、とりあげるテーマに関する講演ならびに受講生による事例提案(シーズ紹介)にあて、後半をグループによるフィールドワークならびにコンサルテーション(プレゼン)で構成します。最終の報告会では、供出テーマの経営者もしくは企画担当、およびコンサルティングファームのコンサルタントの出席のもと開催します。グループワークは、受講者数によって変わりますが、1グループ3、4人になるようグループ分けする予定です。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

平常点(中間報告、ケース参加)、最終のプレゼンテーションならびにレポートによって評価する。

テキスト(教科書):

なし

参考書:

石井・嶋口・栗木・余田(2004)『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社。

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目:基礎科目「マーケティング」

生産マネジメント 2単位(1学期)

教授 坂爪 裕

授業科目の内容:

本年度の生産マネジメントでは、企業・生産現場に根付いた文化的側面をいかに記述するかといったテーマに焦点を当て、ディスカッションを行います。具体的には、授業全体を「事例研究・フィールドワークに関する方法論」と「事例研究・フィールドワークに基づいた研究例」の2つのセクションに区切り、順次、下記教科書の輪読を行いながら解説をしていきます。本講はゼミ形式で行います。毎回、レジュメ発表者が指定図書の内容を要約を発表し、その後質疑応答+全員でディスカッションを行い、適宜担当教員が補足説明を加えるというプロセスで進行します。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照してください。

成績評価方法:

評価については、履修者の数にも依りますが、ほぼ毎回のレジュメ発表とクラス貢献、最後に提出して頂くケース・事例研究論文で判断します。

テキスト(教科書):

以下の教科書を各自授業の開始時までに購入してください。

伊丹敬之(2001)『創造的論文の書き方』有斐閣

佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法』新曜社

平井京之介(2011)『村から工場へ—東南アジア女性の近代化経歴』NTT出版

大森 信(2011)『トイレ掃除の経営学』白桃書房

坂爪 裕(2012)『セル生産方式の編成原理』慶應義塾大学出版会

参考書:

授業時に適宜紹介します。

経済性分析 2単位(1学期)

理工学部専任講師 稲田 周平
教授 河野 宏和

授業科目の内容:

本講座では、将来に向けての意思決定を主に経済的な側面から支援するための考え方と技法について、事例分析や演習を交えながら体系的に学習することを目的とする。このような考え方・技法は、一般に経済性工学と呼ばれる領域で体系化されているもので、対象とする時点が意思決定時点より将来であることから、伝統的な財務会計と考え方が異なり、経営においては両者を目的に応じて適切に使い分けていくことが重要になる。本講座では、主に以下の内容をカバーする。

- ・比較の原則とその応用
- ・全部原価計算と直接原価計算
- ・埋没費用、残存簿価、減価償却と設備更新
- ・手余り状態・手不足状態と改善効果・機会損失
- ・優劣分岐点と損益分岐点

- ・資金の時間的価値と換算係数
- ・単一投資案の評価指標:正味利益、回収期間、内部利回り
- ・独立案、排反案、混合案からの選択問題
- ・税引前利益と税引後利益
- ・不確実な状況での分析手法:感度分析、採算検討図、優劣分岐線図など

対象とする意思決定は、設備投資、工場立地、情報システム投資、間接業務の合理化、営業活動の効率化、プロダクトミックス、内外製区分、海外立地とロジスティクスなど、多岐に適用可能である。講座の後半では、キャッシュフロー経営や国際会計基準、財務会計との比較、実際の企業で用いられている投資評価マニュアルにも言及する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

毎回の課題提出と期末レポートで評価します。

テキスト(教科書):

『改訂版 経済性分析』千住鎮雄、藤田精一、伏見多美雄、山口俊和(日本規格協会、1986年12月)

参考書:

『新版 経済性工学の基礎 意思決定のための経済性分析』千住鎮雄、伏見多美雄(日本能率協会マネジメントセンター、1994年6月)

『経済性工学の演習』千住鎮雄、中村善太郎、丹羽明(日本能率協会マネジメントセンター、1994年7月)

担当教員から履修者へのコメント:

会計管理(基礎科目)と多少関連しますが、その成績は問いません。

ヘルスケアマネジメント 2単位(1学期)

無し

教授 田中 滋

授業科目の内容:

医療・介護にかかわるヘルスケア分野は、市場規模の大きさ、従事者数の多さと今後の成長、そして次世代産業のシーズを生み出す可能性の高さなど、どれをとっても日本経済のもっとも重要な産業の代表といえます。一般企業にとっても、新たな事業対象として無視できない分野です。

かつての医療・介護事業では提供機関完結型経営が主流でしたが、今は新しい医療計画および地域包括ケアシステムのコンセプトの下、統合された、もしくはネットワークでつながった地域完結型のケアプランを共有する経営手腕を備える必要があります。こうした理解の下、多彩なケースと資料を用いた討議によってクラスを進める予定です。加えて、この分野は政策・制度面の影響が大きいので、その点も意識した指導を実施していきます。

なお、田中研究室で学び、現在ヘルスケア分野の第一線で活躍する先輩たちがミニレクチャー講演を行うばかりか、クラス討議に積極的に参加し、諸君と交流する点も本科目の魅力の一つです。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラス討論への貢献と期末レポートを同じウェイトで評価します。

テキスト(教科書):

田中滋・柄本三郎編『介護イノベーション』第一法規2011

高橋敏士編『地域包括ケアシステム』オーム社2012

参考書:

さらに読みたい人のための参考文献

田中滋・古川俊治編『MBAの医療・介護経営』医学書院2008

片山壽『父の背中の中の地域医療「尾道方式」の真髓』社会保険研究所2009

担当教員から履修者へのコメント:

毎回の設問に答えられるよう予習に力を入れること

秋学期のヘルスケアポリシー科目が密接に関係する隣接分野を扱います

質問・相談:

アポイントメントはメールで tanaka@kbs.keio.ac.jp

経済理論 I 2単位(1学期)

Economic Theory I

教授 姉川 知史
講師 川村 顕

授業科目の内容:

本科目は以下を目的とする。第1に、初学者が経済学のミクロ経済理論の標準的な内容を理解し、それを応用する能力を提供する。第2に、2学期以降の基礎科目、専門科目の理解を助けることである。対象はこれまで大学において入門レベルのミクロ経済学を履修したことのない学生、また経済学の理解が十分でない学生を対象にして、世界標準の代表的教科書を使った講義を行う。人数は90名を想定し、2クラス編成により、講師が分担して教える。授業では教科書を使って重要な考え方の解説をし、さらにその応用を説明する。学生は教科書を読んで理解すること、さらに練習問題の宿題を解くことが課せられる。さらに、いくつかの題材について、ケース・メソッドを行う。

授業の計画:

本システムは学年途中の修正ができないため、最新版を参照してください。

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

中間試験、期末試験

テキスト(教科書):

Pindyck and Rubinfeld, Microeconomics 8/e, Pearson, 2012.

そのHP上の補助教材システム MyEconlab access kit 日吉生協で購入する。

教科書の2/3を解説する。

参考書:

本授業の事前準備としては次の文献を薦める。ゲーリー E.クレイトン、大和総研教育事業部(監修)『アメリカの高校生が学ぶ経済学? 原理から実践へ』 WAVE出版, 2005

技術戦略の経済学 2単位(1学期)

Economics of Technology Management

教授 姉川 知史

授業科目の内容:

経営学系学生、理学・工学・医療系学生が、技術マネジメントに関する「俯瞰的展望」を得ることを目的とする。手法としては、経済学とマネジメントを技術に応用することを強調する。教育手法としては、ケース・メソッド、講義メソッド、輪読、プロジェクトの4つを併用する。さらに施設見学、見本市見学、外部専門家講演などを付加する。

本科目は次の視点を強調する。

1. 技術・イノベーション・マネジメント
技術・イノベーションのマネジメントはどうあるべきか。
そのマネジメント手法の内容は何か。その限界は何か。
経営における技術・イノベーションの役割はいかなるものか。
2. 技術の社会的展望
技術・イノベーションは経済、社会、企業、政治とどう関係するか。
日本経済の過去15年の停滞と、技術・イノベーションはどのように関係するであろうか。
グローバル化と技術・イノベーションの関係はいかなるものか。
経済成長、環境、安全、食料、エネルギー、医療等における国際的課題はいかなるものか。
3. 技術と経営教育
技術・イノベーションのマネジメント教育はどうあるべきか。
日本の技術者に対するマネジメント教育の課題は何か。
技術・イノベーションとマネジメントとを統合する教育のあり方はいかにあるべきか。
4. 震災後の社会像と技術の事例

通常の科目内容に加え、昨年度に続き、東日本大震災が提起した社会と技術のマネジメントを題材とした授業を行う。震災後の社会と技術のマネジメントとしては、下記の中から重要な課題を選択する。

1. 地震理論、津波理論
2. 巨大自然災害と防災ーリスク管理、危機管理
3. エネルギー、環境、原子力発電
4. 原子力発電の原理と事故
5. 放射能による汚染と除染
6. 農水産物と食品の安全
7. 地震災害と救急医療、地域医療
8. 技術の限界、技術者の倫理
9. 日本の技術の課題ー技術者の倫理と精神
10. 先端技術の製品企画ー太陽光発電等
11. その他

授業の計画:

本システムは学年途中の修正ができないため、最新版を参照してください。

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

昨年度は、東日本大震災が提起した技術マネジメントの課題を題材とした授業を行った。今年度は、日本のR&D志向型企業の失敗、リスク管理、新規事業に対する取り組み方法などを含める。

さらに、次の点を強調する。

1. 芸術、文化、地域
2. 企業家精神
3. 都市の理論
4. スマートシティの構想、方法、限界
5. 意思決定とデシジョン分析
6. 確率論と統計的意思決定
7. プロジェクトと企業の財務価値評価
8. プログラムの経済評価
9. プロジェクト・プログラム・マネジメント

成績評価方法:

授業参加50%、レポート課題1、250%

レポート課題は個人の読書レポート 経営学の古典1冊を課題図書とする予定。

ならびにプロジェクトレポートの2種類

テキスト(教科書):

なし

参考書:

多数あり、HPにて詳細を指示

担当教員から履修者へのコメント:

KBSセミナー、田中弘講師「Project & Program Management for the Grand Design Seminar」7月6日、7日、15日の3日間セミナーを原則として履修すること。これはProject & Program Managementの導入セミナーで、履修証、CPU認定がある。

関連する科目

本科目を履修した学生には、グランド・デザイン・プロジェクト1、2の履修申請を勧める。

質問・相談:

講師にe-mailで質問のこと。

グローバル戦略経営論 2単位(1学期)

教授 磯辺 剛彦

授業科目の内容:

多国籍企業や海外直接投資の意思決定や戦略について理解すること。本講義の終了時には、(1) 国際経営の分野に関する包括的な知識、(2) 多国籍企業の戦略や行動を理解するための手法、(3) 修士論文を含めた今後の研究課題に役立つことを期待する。講義の進め方: 1日2セッションの構成として、前半は学術文献についての講義と議論、後半はケーススタディとする。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラス貢献(ケース) 50%
クラス貢献(文献サーベイ) 50%

テキスト(教科書):

なし

参考書:

なし

戦略コンサルティング 2単位(1学期)

ボストンコンサルティング寄附講座

准教授 岡田 正大
教授 小林 喜一郎

授業科目の内容:

戦略コンサルティング会社のリーダー的存在であるボストン・コンサルティング・グループより講師を招聘し、コンサルティング現場の実例に基づいた講義を行う。これによって経営の今日的課題を理解し、同時にコンサルティングの手法・アプローチ・頭の使い方を学ぶ。主たるテーマは、戦略コンサルティングの概要、バリューポートフォリオマネジメント、R&D戦略、マーケティング・営業戦略、デコンストラクション、eビジネス戦略、IT戦略、コーポレートガバナンス、BCGコンセプト等を予定している。全回数出席を必須とし、遅刻は認めない。

また毎回グループプロジェクトおよび個人発表準備などがあるため、事前の入念な準備が不可欠である。さらに都心開催のため、日吉との往復が新たに発生するので、午後の授業と講義概要のバランスを考える必要がある。上記を十分勘案したうえで履修すること。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席、グループ課題、個人課題

テキスト(教科書):

特になし

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 総合経営、競争戦略論

ベンチャーキャピタリスト養成 I 2単位(1学期)

起業および起業支援の基本的素養と覚悟を、体験的に身につける
講師 村口 和孝

授業科目の内容:

なぜベンチャー立上げ作業は成功したり失敗したり一見不安定に見えるのか。フェイスブックなど新事業の成功条件は何か。またその前提として、①起業家として、②会社経営者として、③事業経営・マネージャーとして、④オペレーター・社員として、新事業立上げ活動、及び資本組織としての企業(創立と発展の本質)を、どう理解すればよいか。それぞれの立場、変化する状況から考察しながら、経営者、起業家として活動できる力量を身につけてもらう。

技術革新スピードが早く、グローバルに、資本市場と結びついて劇的に変化する現代経済社会の中にあって、経済フロンティアを切り拓く創業ベンチャー企業を投資支援するベンチャーキャピタル(VC)の重要性が世界的に高まっている。ところが金融機関の関係会社として1970年代にスタートした日本のVC産業は、これまで欧米に比べ創業支援の社会的機能を果たしてきたとは言い難い。投資事業有限責任組合法が施行になったころから、日本でも創業支援に重きを置く「クラシックVC」が登場した。その代表が、私が運営する日本テクノロジーベンチャーパートナーズ(NTVP、1998年創立)である。投資先にはエクスペリアンジャパン、ジャパンケーブルキャストなどがある。成功ケースとして、スマホサービスのモバゲータウン成功で話題となったDeNA(創業:南場智子)、XML応用ソフトウェア開発のインフォテリア、水供給事業のウォーターダイレクト等を、創業から経営に関与し、数々の困難を乗り越え東証マザーズに上場させた。

本講座は、NTVPにおけるDeNA等の、キャズムを超える創業支援体験を踏まえ、使用テキストの読み込みを軸に、ベンチャー創業活動、経営の実際を総合的に理解する。またVCファンド設立契約実務、投資候補先の評価や、投資後の長期的関与の考え方と手法を、実体験を通じて学ぶ。講義には、最前線の現場で活躍するベンチャーキャピタリストが、実践的に講義する。上場ベンチャー起業家や、弁護士、会計士、司法書士、社労士など、最前線のゲスト現

役実務家も随時招く。さらにベンチャー企業訪問や株主総会出席、チーム活動および対外交渉も行う。

なお本講座全体の進め方は、座学のみでなく、講座の時間の中で、慶應大学理工学部・大学院(矢上)において毎年実施される会社創業体験プログラム授業と連携し、VCBS受講者がチームに分かれてVCファンドを実際に創設運営し、VC投資家役を担い、理工学部生・大学院生の矢上祭における模擬店の小事業に投資して、実際に支援し、ファンドとしての結果を競争してもらおう。また、理工学部講義に参加して学部生・大学院生を指導する。その過程で、事業計画の評価や投資および小会社運営への関与の実践を通じ、会社経営およびVC投資活動を考察し、発表しあう。

また、KBS自由科目の8月夏季集中スタートアップ創業体験プログラム(予定)の支援活動も授業の一部に取り入れる計画である。

各々の体験から随時体験レポートを作成してもらい、理論だけでなく、株式会社運営実務と創業ベンチャーが事業失敗や困難を克服してキャズムを超えていくダイナミックな経営観を身に付けてもらう。したがって真に経営実践および投資実践に興味を持つ、活動的で、能動的な時間を持つとする受講者のみを対象とする。受動的受講者には厳しく、また通年で受講することが望ましい。

また、講義が始まるまでに「アントレプレナーの教科書」<http://amzn.to/ZDbbRz>の第一ステップまでの精読が条件で選抜レポートも検討中。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席が基本である。それに授業中に出されるレポート提出、活動への取り組みの積極性等をもとに評価する。

テキスト(教科書):

NTVP作成の創業体験ノート、「アントレプレナーの教科書」<http://amzn.to/ZDbbRz>(スティーブン・G・ブランク著、堤孝志/渡邊哲訳、翔泳社)、「スタートアップマニュアル」<http://amzn.to/WVRDqA>「最強の起業戦略」<http://amzn.to/MAGffW>、「日本のブルーオーシャン戦略」<http://amzn.to/VR8plb>およびその他、ベンチャー起業活動、ベンチャー経営に関する著書

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目:ベンチャーキャピタリスト養成II(2学期開講)

各授業の後で、専門家や起業家を交えた交流会を開く事が多いのが、参加すると、さらに教育効果が深まると思われるが、必須ではない。

集中企業研究 2単位(1学期)

講師 三富 正博
准教授 村上 裕太郎
教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

目的:企業のトップの視点に立って、企業価値の創造にコミットできるプロフェッショナルな経営者の育成を目的としています。

方法:1学期間に1つの企業を複数の領域から深く分析します。今年取り上げる企業は、大田区のものづくり企業であるタマチ工業です。実際に企業のトップに来ていただき、企業として大切にしている理念や戦略、さらには困っている問題点、将来に向けて対処すべき課題等を語っていただきます。それをベースに企業分析をし、課題を明確にし、必要があれば担当部署へのヒアリングを行い、企業価値創造の道筋を明らかにしていただきます。学生の方にはグループ毎にプロジェクトをマネジメントしていただき、アウトプットとして対象企業のケース教材を完成し、作成ケースを用いた教育授業をしていただきます。

内容:この科目は3つの内容から構成されています。①企業分析アプローチの明確化、②企業分析、③ケース教材です。

① 企業分析アプローチの明確化:「トップの視点とは?」、「複数の領域とは?」、「深く分析するとは?」、「企業価値の創造とは?」、「経営するとは?」等についてクラスでのブレインストーミングや課題図書のリージングを通じて解き明かし、企業分析アプローチを明確にします。さらには明確にしたアプローチを通じて企業分析をするための事前準備を行います。

② 企業分析:①で明確にしたアプローチに沿って企業分析を行います。分析には、対象企業の経営者による講演、担当部署へのヒアリング等が含まれています。

③ ケース教材:ケース教材の作成と作成ケースを用いた教育授業を実施します。

学生に期待する点:

将来事業会社のトップとして実際に企業価値の創造にコミットしたい学生の受講を期待します。外部から分析して終わる授業ではありませんので単に評論したい方の受講はお控えください。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席、発言、授業への貢献等を勘案して評価します。

テキスト(教科書):

なし

参考書:

授業で紹介します

担当教員から履修者へのコメント:

集中企業研究は今年で5年目です。過去取り上げた企業は1年目オムロン、2年目パルス、3年目青山フラワーマーケット、昨年はパソニックの携帯電話事業です。

今年の授業は、KBSと城南信用金庫のコラボレーションの一環として位置づけています。城南信用金庫のお客さまは大田区の中小のものづくり企業ですが、企業では将来経営を目指すような若者を求めています。一方、KBSでは将来経営をしたい学生が学んでいます。しかしながら、両者は近い距離にありながらこれまであまり接点がなく、企業と人材の間にミスマッチが起っています。そのようなミスマッチを埋める一つのきっかけにこの授業がなれば、と考えています。

新事業創造体験 2単位(1学期)

講師 若山 泰親
准教授 岡田 正大
教授 山根 節

授業科目の内容:

【科目のねらい・目標】

本科目の目的は、使命感をもって新たなビジネスを企画・立案・実行できるリーダーの育成である。ベンチャー企業においても、また、大企業の新規事業開発部門においても、イノベーションの創出とその事業化をマネジメントし、事業と企業の価値を高めていける人材が待望されている。本コースでは、事例研究とビジネスプラン作成(新規起業、既存企業内での新規事業どちらでも可)のためのグループワークを通じ、今後グローバルに通じる事業、企業を創出するための戦略立案能力を学習するとともに、実際の新規事業において直面する課題とその克服に関するフレームワークを学習する。また、リーダーとして強化すべき資質であるところの、アントレプレナーシップ、戦略立案能力、ビジネスデベロップメントに関わる各種統合的な能力、コーポレートファイナンス領域におけるスキル、柔軟でスピード感のある事業運営能力、リーダーシップおよび組織マネジメント能力などについても、強化のための指針を示すものとする。

【授業で扱う領域】

新事業のビジネスプランの策定に必要なスキルの習得と、フィールドワークを通じた新事業開発の体験を主に取り扱う。ビジネスプランについては、受講者自身が手を動かしてプランを作成することを予定しており、実際の新事業創造局面での活用に耐えうるビジネスプラン作成スキルの習得が可能である。

授業は、(1)講義・ケースディスカッション、(2)外部講師参加によるリアルケース演習、(3)ビジネスプランの立案・フィールド調査・発表、の組み合わせにより進められる。

【履修者に対する担当教員からの要望】

主体的にビジネスプランの策定とフィールドワークに取り組むことを要望する。実際に起業や既存企業内での新事業立ち上げに取り組む履修者を歓迎する。

なお、想定している受講者は下記の通りである。

- ・具体的な起業プランや将来起業する構想を持ち、ビジネスプランのブラッシュアップ、実践を考えている学生
- ・新規事業開発のフレームワークを学びたい学生
- ・ベンチャーキャピタル、金融機関などの立場からベンチャー企業の評価のための知見を得たい学生

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

1. クラスへの出席とクラス貢献
2. 個人及びグループワークで作成するビジネスプランの評価
3. フィールドワークの評価

テキスト(教科書):

指定なし

参考書:

「アントレプレナーの教科書」ステイブン・G・ブランク(著)、渡邊哲(翻訳)、堤孝志(翻訳)

「Getting to Plan B」John Mullins(著)、Randy Komisar(著)

「キャズム」ジェフリー・ムーア(著)、川又政治(翻訳)

アジアビジネス・フィールドスタディ 2単位(1学期)

准教授 小幡 績
特別招聘教授 張 秋華

授業科目の内容:

本コースは、KBS、中国のNo.1ビジネススクールである清華大学と韓国のNo.1ビジネススクールであるKAISTの3校の共同開催コースであり、2012年度からスタートした科目である。日中韓3カ国のMBA生が、それぞれの国の特定の産業を比較分析した上で、3カ国のうちの1国についてその産業に属する代表企業、特色のある企業等を訪問し、フィールドスタディを行う。その産業や訪問企業のアジアおよびグローバル市場における成功に向けたキーフакターの検討、戦略策定を行うことを目的とする。

本年は、韓国を訪問し、韓国のエンターテイメント、メディアビジネスの分析を行う。具体的な訪問企業は今後確定する。訪問日程は7月7日から13日。この期間が韓国滞在期間となり、企業訪問、中国、韓国との学生、教員とのディスカッションを集中的に行う。これに追加して、6月、7月、8月前半はかなりまとまった活動を行う。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

企業分析における中国、韓国との学生とのチームプレゼンテーション、および作成ケースによる。

テキスト(教科書):

教科書、参考書はない。授業内で適宜配布する。

不確実性と組織のマネジメント 2単位(1学期)

教授 清水 勝彦

授業科目の内容:

本コースは、大きく変わる経営環境の下、経営が直面するuncertaintyと対応(management)についての理解をより深めることを目的としている。マクロ環境についてはさまざまなツール(例、シナリオプランニング)が存在するが、本コースはよりミクロな組織・戦略のマネジメントにかかわるuncertaintyに焦点を置いている。

受講者には、活発な問題提起とディスカッションを期待する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

ディスカッション、ケース分析、課題

テキスト(教科書):

なし

参考書:

適宜提示する

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: マクロ組織論

統計学入門 2単位(1学期)

講師 矢野 学

授業科目の内容:

効率的な経営判断を行うためには、データを収集・分析し、必要な情報を抽出する必要があります。本講義では、統計学に必要な数学的知識を復習した後、基礎的な統計学を学ぶことによって、データを加工して経営に必要な情報を得る方法を学習します。

講義ではまず、平均や分布などの基本的な知識を学び、確率と確率分布の概念を理解した後、予測や推定・検定の統計学的推測法につ

いて解説します。さらに、回帰分析や統計モデルについて学び、傾向の分析や予測手法を学習します。講義では、理論的な学習とともに、実際のデータを用いて演習を行いながら、統計学やデータ解析の実践について学びます。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

基本的には履修者数に依存しますが、授業への出席、期末試験もしくはレポートを予定しています。

テキスト(教科書):

特になし

参考書:

田中勝人『統計学 第2版』新世社

担当教員から履修者へのコメント:

この講義はこれまで統計学や確率論の知識がない学生を対象にしています。講義では毎回Microsoft Excelを用いた演習を行いますので、ノートPCを持参下さい。

英語ビジネス・コミュニケーションⅡ 2単位(1学期)

英語ビジネスコミュニケーションⅡ

講師 定森 幸生

授業科目の内容:

グローバル・ビジネスの最前線で求められる英語力は、TOEICなどで測定される受け身の英語力(passive skills)だけでは不十分で、企業活動のさまざまな業務(対外取引、IR・広報活動、事業戦略策定、人事・業績管理など)の遂行を可能にする情報の受発信に即応した実践力(active skills)の強化が不可欠である。

本科目では、そのための戦略を模索することを主たる目的とし、受講者はreading, writing, listening, speakingの事前課題の成果をクラスで発表しながら、「企業・個人の"ブランド・イメージ"」を高めるプロに相応しいコミュニケーション技術を学ぶ。事前課題は、提示されたシナリオに基づくbusiness writingと、世界の企業経営者の発言の数分間のビデオクリップ(指定されたwebsiteからのダウンロード)を材料にしたclass discussionの準備が中心となる。クラスでの使用言語は原則として英語とする。

科目履修の基本コンセプトは、「優れた口頭表現力は、優れた文章構成力から」というもので、受講者は、class discussion/debateでの発言内容(賛成意見と反対意見の両方の論拠を含む)を事前に書き出し、論理展開の巧拙について十分な検証をしてクラスに出席することが求められる。

主な履修テーマは、①Fundamentals of Business Communication, ②Communication Strategy for Enhanced Branding, ③Performance Management and Leadership, ④Proposing a New Project, ⑤Managing Conflict and Problem Solvingを予定している。

4月12日(金)3時限に90分のオリエンテーションを行う。実際の授業は、6月1日(土)から6週連続で3時限~5時限の集中授業を予定している。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

事前課題の提出、クラスでの発表を総合的に勘案した絶対評価とする。

テキスト(教科書):

教科書は指定せず、事前課題の中でreading materialsを指定するほか、世界の企業経営者の発言を数百種類収録したインターネットサイトであるFiftyLessons(<http://www.fiftyfessons.com>)から、課題スピーチをdownloadして事前課題の予習をおこなう。KBS学生対象のFiftyLessons特別割引購入手配中。

担当教員から履修者へのコメント:

特定の科目との直接的な関連はないが、ヒト、モノ、カネ、情報に代表される経営資源のマネジメントの場面を想定して、少しでもグローバルビジネスの臨場感を体験できるような講義テーマ設定をしている。

グッド・ビジネス・イニシアティブ 2単位(1学期)

特任教授 岩本 隆

授業科目の内容:

グローバル化が進むビジネス社会の中で、CSR、サステナビリティ、社会的弱者への対応、経営倫理など、良きビジネス(グッド・

ビジネス)に大きな関心が集まっている。本コースでは、グッド・ビジネスの“グッド”の意味を、幅広くかつ具体的な産業・ビジネスを題材に、経営学の分野横断的な視点(戦略、財務、人財、技術、・・・)で掘り下げ、これから創造していくべきグッド・ビジネスについて体系的に検討する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業への貢献度、レポート、プレゼン

テキスト(教科書):

毎回配布する

参考書:

授業中に適宜紹介する

担当教員から履修者へのコメント:

授業を通して新たなコンセプトを創り上げていきます

ベンチャー起業家と法律実務 2単位(1学期)

講師 佐藤 明夫

授業科目の内容:

法律は、社会との関連性の中ではじめて意味を持つてくるものであるから、実社会と切り離された中で、理論や判例、学説の学習を座学として行ってもあまり意味がない。とりわけ、経済社会における実務家となるための学習として法律を学ぶ場合、法律だけでなく、会計、税務を含む、経済やその他の社会の様々な情勢との関連性を常に意識し、かつ、具体性を持って勉強しなければほとんど「使えない教養」にしかならない。

そこで、本講座においては、卒業生が、卒業後に起業家としてベンチャービジネスを興し将来上場を目指していくことや、一定以上の規模の会社の取締役役に就任したり、経営企画部等の戦略部門において勤務するなど、企業の中核において会社経営に参画することを念頭に、企業経営に必要となる会社法を中心とした様々な法律の基礎を勉強した上で、会計、税務、人事政策等から、資本政策、IPO、さらには、上場後の企業の中核として知っておかなければならない経営や事業戦略上必要となる様々な事項について、単なる抽象的な座学にならないように、法律については実務的、実践的に、さらには、法律以外の分野との関わりを具体的に示しながら講座を展開していくことを想定している。

なお、必要に応じて、専門的な法律分野や、他の分野の専門家を招聘して、そういった専門家の講義と連携して授業を進めていくことを想定している。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

追って知らせる。

経済・社会・企業 A 4単位(2学期)

経済・社会・企業 B 4単位(2学期)

教授 姉川 知史

教授 中村 洋

授業科目の内容:

人は自然、政治、経済、社会、技術、地域、国家、世界等、多様な外部要因の理解が必要になる。企業、政府、その他の主体の経営においても、各人は、それらがどのようなものであるか俯瞰的展望を獲得し、それが人と組織にどのような影響を持つかについて見通しと理解を持ち、さらに外部環境に対して、何をなすべきか、どのように働きかけるかという判断が重要になる。これは経営幹部がもつべき最も重要な資質でもある。本科目では、外的環境として代表的題材を選択し、その学習によって、各人が外的環境の展望、見通し、理解を得て、さらにめざす目的を明確にし、判断能力を養成する。

この科目では次のモジュールに分けて授業を行う。

第1のモジュールは「外部環境変化と経営」である。環境問題への注目、規制の変化、企業の社会的責任に対する注目の高まり、技術変革など、企業を取り巻く外部環境は大きく変化している。それらの変化に対する理解を深めるとともに、企業・組織経営のあり方について議論を行う。

第2は「マクロ経済」である。ここでは1980年代までの日本と世界の経済の変遷、とりわけ1990年代以降の日本経済、そして現在の

経済、そこでの金融政策、財政政策、構造改革等の問題を検討する。日本経済と国際経済、国際金融との関係を強調する。ここではマクロ経済学的手法を利用する。

第3は「社会問題」である。ここでの議論には、市場機能と非市場機能の対比、文化的側面、公共性の概念、社会保障(年金・介護・医療)、少子化問題などが含まれる。さらに、今年度は震災復興、都市問題も議論する。

本科目はケース・メソッドを採用する。

また、今後重要と考える外部環境変化を取り上げ、グループとしての分析を行い、口頭報告を行い、レポートを提出する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

- ① 授業参加40%
- ② 中間試験20%
- ③ 期末試験20%
- ④ グループ発表20%

なお、経済理論I、経済理論II、ならびにデータ分析、統計学の初歩は本科目の前提であり、試験はその内容を含める。

テキスト(教科書):

Pindyck and Rubinfeld, Microeconomics, 8/e, Pearson, 2012.

マンキュー『マンキュー、マクロ経済学入門編』東洋経済新報社

財務管理 A 4単位(2学期)

財務管理 B 4単位(2学期)

准教授 小幡 績
准教授 齋藤 卓爾
准教授 高橋 大志

授業科目の内容:

ファイナンスと経営財務の基礎を学習する。資産価格評価(アセットプライシング)の基礎を、コース開始前に自習により習得することを前提とする。コースは、主としてケース討論と講義により進める。高橋が、アセット・プライシング、企業価値評価の基礎、資本コスト算定、金融派生商品とリスク管理を担当する。齋藤が、企業価値評価の応用、M&A、企業再生、経営者の資本市場対応などを担当する。小幡は、総合的な経営戦略の手段としての財務戦略や金融市場の観点を議論する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラスで別途指示する

テキスト(教科書):

久保田敬一、決定版 コーポレートファイナンス、東洋経済新報社、2006.

リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン(著)、藤井眞理子、国枝繁樹(訳)、コーポレートファイナンス(第8版)(上)、日経BP社、2007.

参考書:

渡辺章博、井上光太郎、佐山展生、M&Aとガバナンス—企業価値最大化のベスト・プラクティス、中央経済社、2005.

生産政策 A 4単位(2学期)

生産政策 B 4単位(2学期)

教授 河野 宏和
教授 坂爪 裕

授業科目の内容:

本コースでは、企業活動において製品やサービスを提供する「生産・供給機能」とそのためのオペレーションに焦点を当て、

- (1) 生産・供給機能が果たすべき役割に関する基本的な理解
- (2) オペレーションに内在する課題を発見・分析・改善する視点
- (3) 「生産・供給機能」分野における主要な経営課題と意思決定問題に関する分析・判断能力

を講義・演習・工場見学・ケース分析を通じて習得する。

本コースでカバーされる主な内容(問題領域)は以下の通りである。

A. 生産管理を中心としたオペレーション・レベルの問題領域

1. 作業管理と設備管理
2. 生産計画と日程管理

3. 品質管理

4. オペレーション・プロセスの分析・改善・設計、など

B. 生産政策レベルの問題領域

1. 生産システムの改善とその効果

2. 新製品の導入と生産設備投資

3. 自動化への対応と情報システムの革新

4. 営業政策・財務政策と生産部門の役割

5. トータル・サプライ・プロセスの設計と改善

6. 改善活動のマネジメント

7. 生産革新と企業体質

8. 国際生産政策における諸問題、など

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

担当者毎にクラスにて別途指示

テキスト(教科書):

藤本隆宏(2001)『生産マネジメント入門I【生産システム編】』日本経済新聞社

マクロ組織論 2単位(2学期)

教授 清水 勝彦

授業科目の内容:

組織の問題に1つの正解はない。本コースは、大きく変わる経営環境の下、組織のあり方、そして組織がその目的である成長と業績を実現するための課題と課題を克服するためのアプローチについて考察する。文献講読(英書文献を含む)をベースにした討論に加え、適宜ケース討論も行ないたい。積極的な議論への参加が不可欠である。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

ディスカッション、課題など

テキスト(教科書):

1. ジャック・ウェルチ『ウィニング』(日本経済新聞社)

2. 沼上幹『組織戦略の考え方』(ちくま新書)

3. 清水勝彦『組織を脅かすあやしい常識』(講談社)

参考書:

6. ダフト『組織の経営学』(ダイヤモンド社)

7. 柴田昌治『なぜ会社は変わらないのか』(日経ビジネス人文庫)

8. 清水勝彦『失敗から学んだつむりの経営』(講談社)

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 不確実性と組織のマネジメント

マネジメント・コントロール 2単位(2学期)

教授 山根 節

授業科目の内容:

マネジメントは下記のように階層化してとらえることができる

(1) Strategic Planning

(2) Management Control

(3) Operation (Operational Control & Operation)

マネジメント・コントロールとは、立案された経営戦略(Strategic Planning)を、組織的に実行(Operation)していくための「組織マネジメントのシステムおよびプロセス」のことである。かつて米国では、マネジメント・コントロールとは管理会計システムによる作業標準管理や事業部制管理を指していた。テイラーリズムやフォードイズム、GMモデルなどが該当する。これらシステムの底流には「人々は監視をしていないとすぐに怠けようとする」といった経済人モデルという人間観があり、作業標準やノルマを与え、その達成水準に歩合給を結びつけ、それらを管理会計システムでモニターしていたのである。

しかし今日、豊かな社会の到来と共に人間観は変わった。人々を命令や恐怖によってコントロールするのではなく、自律的な協働をいかに引き出すかが経営上の主要なテーマになっている。したがって今日のマネジメント・コントロールとは、経営戦略を実行につなげる、人々の協働を引き出すシステムおよびプロセス全体を指している。「組織は戦略に従う」と言われるが、マネジメント・コントロールの設計は戦略の内容によって大きく異なる。また人間行動への理解が欠かせない。

したがってこのコースでは、マネジメント・コントロールの最新の研究成果をすべて包含し、マネコンを中心に置きつつ、経営理念や経営戦略、それに適合した役割分担とその体系(組織構造)、コミュニケーション・システムやインセンティブ・システム、人事政策、そしてさらにリーダーシップのあり方などを多面的に議論していく。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

毎回、設問に回答するミニ・レポート(A4用紙1枚程度)の提出を求める。成績配分の目安はミニ・レポートをクラス参加点に代えて1/3とし、期末の提出レポート(「ケース+分析」、また成績評価方法はいずれかの企業のMCS分析の提案書---A4用紙10枚程度以上)を2/3とする。

テキスト(教科書):

「戦略と組織を考える-MBAのための7ケース」山根 節著、中央経済社

参考書:

教科書中に記載あり

担当教員から履修者へのコメント:

総合経営、組織マネジメント、会計管理など多分野に及ぶ

日本における会計管理 2単位(2学期)

教授 太田 康広

授業科目の内容:

Course Objective

The primary purpose of this course is to provide students with knowledge and understanding of Empirical Accounting Research.

Class Format

One or more papers are assigned to each student. The student prepares approximately 30 slides for a 90 minutes presentation. The audience may ask questions any time during the presentation.

If you decided to drop this course, inform the instructor of your decision as soon as possible.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Presentation 50%, Class Participation 10%, Term Paper 40%.

テキスト(教科書):

Not applicable

参考書:

17 academic articles are designated as class materials. See syllabus for further details

担当教員から履修者へのコメント:

Basic knowledge of Econometrics is required.

行動ファイナンス 2単位(2学期)

准教授 小幡 績
准教授 齋藤 卓爾
准教授 高橋 大志

授業科目の内容:

行動ファイナンスについて、現実のトピックも織り交ぜながら、優しいレベルではあるがアカデミックな講義をしていきたい。その中でディスカッションも多くして、学生からのアイデア、見方とともに、深く金融市場について考えたい。アカデミックな論文もいくつか読みたい。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

レポート、クラス議論での貢献

テキスト(教科書):

Inefficient Market Andrei shleifer 講義テキスト 小幡績

参考書:

NA

リスクマネジメントと危機管理 2単位(2学期)

講師 指田 朝久

授業科目の内容:

※科目のねらい・目標

リスクマネジメントと危機管理に関する標準規格に則った基本的考え方を身につける

※授業で扱う領域

企業は商品やサービスを社会に提供し適切な対価を得て継続的に発展することを目的としている。しかし東日本大震災などをはじめとする企業の目的の達成を阻害する様々な災害や事故などの事象が発生し、場合によっては企業の存続が不可能となる。このような事象を組織として未然に防ぐリスクマネジメントと、万が一発生した場合でもその影響を最小限に留める危機管理について学ぶ。リスクマネジメントに関する標準規格の考え方を学ぶとともに、モデル企業を例に企業のリスクマネジメントシステムを毎回の授業で行う演習により構築していく。また、企業の事件や事故の対応事例をケースメソッドやクロスロードなどのゲームを用いて分析していく。

※履修者に対する担当教員からの要望

日々の企業や組織の事件や事故の報道に関心を持って考える習慣を身につけて下さい。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

期末レポート 60%、授業へ参加寄与度 40% (出席および宿題の提出を含む)

テキスト(教科書):

リスクマネジメントがよくわかる本第2版 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社著

秀和システム 2200円+消費税

ISBN 978-4-7980-3288-7

参考書:

ケースブックあなたの組織を守る危機管理

危機管理研究会編著

ぎょうせい 5000円 (消費税込み)

ISBN 978-4-324-09258-3

経営科学と意思決定 2単位(2学期)

経営科学と意思決定 2単位(3学期)

Management Science and Decision Maing

准教授 安道 知寛

授業科目の内容:

This course combines lectures and case studies. Course objectives are to understand qualitative judgment frameworks and to bridge the gap between the frameworks and their practical use. By the end of the course, you will learn the basic concepts of qualitative judgment frameworks. Importantly, a skill for implementing them in practice is acquired.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class attendance, Report (Tentative)

テキスト(教科書):

None.

参考書:

None.

担当教員から履修者へのコメント:

Details of class format is explained at the first class.

ネットワーク・リーダーシップ 2単位(2学期)

講師 高田 朝子

授業科目の内容:

情報化社会の進行とともに、組織のあり方そのものも、そこで求められるリーダーシップの性質も大きく変化している。様々な環境、様々な組織、様々なメンバーによって、そこでとられるべきリーダーシップのあり方に違いがみられるはずである。本授業ではネットワークという視点からリーダーシップを考えていく。ネットワークは単に情報システム上の繋がりだけではなく、人と人との繋がりすべてがネットワークであると捉える。組織は様々なネットワークの

連合体であり、同時に組織そのものが一つの大きなネットワークを構成している。企業同士もまたしかりである。そのような構造をふまえて、それぞれの環境下でどのようなマネジメント上の課題があり、それをどのように考えアクションがとれるのか。そしてそのアクションが、全体に対してどのような影響を与えるのかについて考える。

授業ではビジネス環境の様々な場面にスポットを当て、自分がその場面の責任者であればどのように状況を理解し、そしてどのように意思決定をし、組織を動かしていくのかを考える。授業は意思決定と思考の訓練の場である。MBA科目である以上、理論的知識と実践的な知見双方の向上を目指す。受講生の積極的な参加を期待する。

授業の計画:
KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:
自習ノート(出席点) 30% class participation 40% レポート 30%
テキスト(教科書):
「影響力の武器 人はなぜ動かされるのか」社会行動研究会 誠信書房
「静かなリーダーシップ」 J. バダラッコ 翔泳社

日本における組織マネジメント I 2単位(2学期)

専任講師 大藪 毅

授業科目の内容:

The lecture deals with the distinctive features of Japanese organization. It especially focuses on the human resource management system and its social background. In addition, it may consider the contrast of the Japanese and the Anglo-Saxon models.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Students will be evaluated with 3 factors, class/lecture attendance, discussion and report. The proportion of them is 30:40:30.

ロジスティクス論 2単位(2学期)

伊勢丹 KBS チェアシップ基金寄附講座

特任教授(非常勤) プラート, カロラス

授業科目の内容:

Since the advent of Japan as one of the world's top economic powers during the latter part of the twentieth century, academic and journalistic interest has focused on uncovering and explaining the characteristics of Japanese corporate business and marketing methods. Especially during the 1980s and 90s, many experts sought to unravel the secrets behind the success of Japanese marketers in foreign markets and tried to explain the peculiarities of the Japanese market to foreign marketers. In spite of a recent shift of attention from Japan to China—as a result of the economic ascendance of China on the one hand and the relative decline of the Japanese economy on the other—Japan remains one of the world's largest and most sophisticated markets and remains a very important but difficult market for many foreign marketers.

In this course we will take an in-depth look at relevant characteristics of marketing, distribution, advertising, and consumer behavior in Japan. Our primary focus will be on the characteristics of Japanese consumers, how these characteristics have evolved over time, and how consumer behavior affects the various aspects of corporate marketing strategies and tactics of both Japanese and foreign companies operating in the Japanese market. This course will show that in the 21st century the characteristics of Japanese marketing and consumer behavior continue to evolve and constitute a moving target for domestic and foreign-affiliated companies alike.

The course is organized around student presentations and class discussion of key readings from the relevant academic and trade literature. In addition, we will read and discuss a number of cases that will illustrate how both foreign and Japanese companies have dealt or are dealing with the peculiarities of the Japanese marketing environment. Students will work in groups to present the readings and cases. In each session, a different group will present the readings for that session. The group in charge of presenting will prepare presentation handouts for all participants. The instructor will moderate class discussions, conduct mini

lectures, answer questions and provide additional explanations to put the readings and cases into a larger perspective.

At the end of the course, participants will individually submit a report in which they critically discuss and synthesize the readings. Readings, presentations, class discussion and the final report will be in English.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class participation (individual): 20%

Presentations (group): 35%

Final report (individual): 45%

参考書:

1) Fields, George (1985) From Bonsai to Levis: When West Meets East: An Insider's Surprising Account of How the Japanese Live; 2) Fields, George; Katahira, Hotaka; Wind, Jerry; Gunther, Robert E. (1999) Leveraging Japan: Marketing to the New Asia; 3) Haghirian, Parissa; Toussaint, Aaron (2011) Japanese Consumer Dynamics; 4) Mooney, Sean (2000) 5,110 Days in Tokyo and Everything's Hunky-Dory-The Marketer's Guide to Advertising in Japan; 5) Herbig, Paul (1995) Marketing Japanese Style; 6) Johansson, Johnny K; Nonaka, Ikujiro (2000) Relentless: The Japanese Way of Marketing; 7) Kotabe, Masaaki; Czinkota, Michael R. (1999) Japanese Distribution Strategy: Changes and Innovations.

ヘルスケアポリシー 2単位(2学期)

無し

教授 田中 滋

授業科目の内容:

本科目は、ヘルスケア分野(主に医療・介護)にかかわる政策と制度の体系、およびそれらの機能を学ぶための科目です。医療と介護のシステムは、①サービス提供体制と利用方法、②住民にサービス利用を保障する社会保障制度と社会福祉制度、③サービス提供に要する費用を補填する報酬制度、の3項目から成り立っています。いずれも一国の社会・経済の安定を支える基盤としてもっとも重要な社会資本と位置づけられます。

また、産業規模の大きさ、従事者人口の多さと今後の成長、この分野を支えるために住民が貢献する公的負担の額、次世代産業の技術シーズを生み出す可能性の高さなど、どれをとっても重い意味をもつ分野なのです。

人口の高齢化とともに、医療や高齢者ケアに対するニーズは増加の一途をたどる以上、医療や介護事業にたずさわる経営者、さらには生損保分野や薬業界に属するビジネスリーダーのみならず、一般の企業人も政策と制度にかかわる幅広い識見をもつことが必要となるでしょう。加えて、この分野で育ってきたハードの技術、制度資本を含むソフトの双方とも、国際的な展開が期待されています。授業では資料を基にした質疑と討論によって、上記を深く理解させるように進めていきます。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラス討論への貢献と期末レポートを同じウェイトで評価します。

テキスト(教科書):

厚生労働白書2012年版:厚生労働省HPよりダウンロード可能。

後日変更があれば7月ごろ公開される上記3のコースアウトラインにて指示します。

その他に当方より資料を配布します。さらに必要な場合はダウンロード先を指定するので自分でアクセスしてください。

参考書:

さらに読みたい人のための参考文献

遠藤久夫・田中滋・西村周三編『医療経済学の基礎理論と論点』勁草書房2006

島崎謙治『日本の医療—制度と政策』東京大学出版会2011

西村周三監修, 国立社会保障・人口問題研究所編『日本社会の生活不安—自助・共助・公助の新たなかたち』慶應義塾大学出版会2012

担当教員から履修者へのコメント:

毎回の設問に答えられるよう予習に力を入れること。

1学期のヘルスケアマネジメント科目が密接に関係する隣接分野を扱っています。

質問・相談:

アポイントメントはメールで tanaka@kbs.keio.ac.jp

経営法学 I 2 単位(2 学期)

講師 井原 宏

授業科目の内容:

・学習目標

経営法学の方法論としてのリーガルプランニングの考え方を理解したうえで、各ケースの事例および関係する法制度の基礎を学ぶことにより、実際の企業経営ないし事業活動に生かす道を考察する。講義による一方通行ではなく、履修者との間で質疑応答、履修者による問題提起や知見の汲み上げを通じて、各ケースのテーマに関する問題解決に向けて双方向の議論を深めていき、現代の企業が直面する内外のビジネス上の法律問題に対する解決能力を養うことを目指す。

・概要

ビジネスローの基礎理論としてのリーガルプランニングの考え方を企業経営・事業活動に活用する方法を検討する。そのためにまず、ビジネスローの基礎である契約法の一般原則を学ぶ。次いで、企業経営・事業活動における重要な法律問題として、(知的財産権)ライセンスによる事業戦略と法律問題、M&Aによる事業戦略と法律問題、製造物責任・製品品質に関する法律問題、環境・安全に関する法律問題、人事・雇用に関する法律問題、競争法による規制と法律問題、企業統治に関する法律問題を順次取り上げ、ケースメソッドにより具体的に検討する。

専門的な法律知識は特に必要ではなく、各ケースのテーマに関わる法制度についてその都度基礎的な理解ができるように講義や質疑応答などで配慮する。もっとも、関係する内外の法制度(日本法およびとくに英米法)に関する予習・復習は不可欠であり、履修者はこの機会に積極的に取り組んでほしい。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

質疑応答状況と授業に対する貢献度およびレポート課題により総合的に評価する。

参考書:

『グローバル企業法』井原 宏著 東信堂出版 2011年

担当教員から履修者へのコメント:

履修希望の皆さんは、KBS修了後は、ビジネスローに関する体系的な授業を受ける機会がほとんどないと思われるので、経営問題に伴う法律問題の重要性を認識してこの機会を十分に活用してほしい。

経済理論 II 2 単位(2 学期)

講師 東 晋司

授業科目の内容:

本科目は、マクロ経済理論をこれまで学習していない学生を対象にして、マクロ経済学の基本的内容を講義します。本科目の主な目的は、履修者が現実のマクロ経済問題を理解するために必要な初歩的な知識と理解力を獲得することです。

本科目は本研究科で提供される基礎科目、専門科目を理解するために必要であり、ミクロ経済理論を講義する経済理論Iと並んで、前提科目として位置付けられます。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席点(10%)、宿題(20%)、試験(40%)、グループ発表(30%)

テキスト(教科書):

マンキュー『マクロ経済学I(入門編)第3版』(東洋経済新報社)※第3版を入手して下さい

参考書:

クルーグマン・オブストフェルド『国際経済学』(エコノミスト社)

担当教員から履修者へのコメント:

「経済・社会・企業」の授業で必要となるマクロ経済学に関する基礎知識を本科目で習得してもらいます。

医療経済学 2 単位(2 学期)

Health Economics

教授 姉川 知史

授業科目の内容:

医療は、国民の生死、健康にかかわる重要な課題である。医療市場は先進各国でGDPの10%を超える規模であり、巨大かつ多くの関係者がかかわる複雑なシステムである。ところが、医療には多様な利害の対立、マネジメントの課題が多く、制度設計が迫られている。このような医療の現状分析、評価、解決において医療に関する科目の充実が世界的に進んでいる。そこでは経済学が重要な役割をはたす。この科目では、医療経済学を基礎にして、医療に関する経済学分析を概観し、医療の政策とマネジメントに応用する方法を検討する。

科目を2つの柱で構成する。第1は、下記の題材を中心に、講義を行う。第2は、プロジェクト研究を行う。そこでは医療における特定の具体的な題材を取り上げ、学生チーム単位に調査研究し、外部専門家の講演と助言を組み合わせ、具体的な提言を行う。プロジェクト課題は、地域医療、病院管理、医療技術、高齢者医療等の多様な領域から選択する。

授業の計画:

本システムは学年途中の修正ができないため、最新版を参照してください。

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

題材 (セッションと異なる は2012年度授業で扱った題材、? は一部のみを扱った題材)

1. 医療システムの概要: 資金循環 ?
2. 医療の経済的特徴, 医療需要, 医療供給者誘発需要
3. 医療サービスの経済的評価の方法と実証: CBA, Conjoint, Hedonic Pricing, WTP, QALY
4. Health Technology Assessment 医療のITC
5. 情報と医療: 情報の不確実性, Principal agent, Moral hazard, Asymmetry
6. 医療保険: 公的保険と私的保険
7. 医療の価格と需要: 診療報酬の役割
8. 人的資源: 医師, 看護師, 技師, その他の人的教育と労働市場とマネジメント ?
9. 物的資源: 設備投資と資金調達とマネジメント
10. 社会的共通資本と医療の公共性
11. 医療と意思決定
12. 規制の経済学とマネジメント
13. 人口, 高齢化, 地域経済学 Smart City
14. マクロ経済学と医療-GDP, 医療費, 社会保障費 ?
15. 医療費の経済分析-計量経済学
16. 医療と技術
17. 医療の関連産業: 医療機器, 福祉機器 国際福祉機器展
18. 医療の関連産業: 医薬品 1
19. 国際比較1 先進国
20. 国際比較2 開発途上国
21. 幸福の計量経済学
22. 地域医療
23. 危機のマネジメント 震災と医療
24. 放射線と安全
25. 因果関係と疫学

成績評価方法:

授業参加40%, 宿題・レポート60%

グループ・プロジェクトも可, 要相談

テキスト(教科書):

Hoel 統計学入門

参考書:

講師のHP 該当箇所参照 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 経済理論I, 経済理論 I I, 統計学入門

質問・相談:
授業後の30分あるいは講師e-mail

国際経済と新興ビジネス 2単位(2学期)

講師 ロイ, アシヨック

授業科目の内容:

Purpose: To teach students how to conduct business and compete in emerging market especially in Asia. What understanding on international economics and finance is required?

What is a challenge to conduct business in emerging market from the point of Japanese corporations? What advantage they have and what disadvantage they face? What is required to compete in emerging market business? Train students who are really involved in emerging market business in the near future.

Main goal is to establish "mind-set" for their business. As introduction we will give lectures on fundamental framework of international economics and international finance. Second, we utilize various case studies with focusing on business of emerging market and examples of Japanese firms.

Project report is assigned. You must choose one theme related to this subject, such as smart community, energy policy, selling products in different culture, infrastructure business, and so on. Project is conducted individually or as a team of several people.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class Participation, Project Report

参考書:

Bruno Solnik and Dennis McLeavey, Global Investments 6/e, Pearson
Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc Melitz, International Economics 9/e, Addison

グランド・デザイン・プロジェクト I 2単位(2学期)

Grand Design Project I

教授 姉川 知史

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

本科目は「グランド・デザイン策定の融合型教育」(HP参照)に参加する学生のうち、単位履修を希望する学生を対象とした科目であり、2学期の「グランド・デザイン・プロジェクト1」と、3学期の「グランド・デザイン・プロジェクト2」で構成する。1科目のみでも履修可能。

「グランド・デザイン策定の融合型教育」は2010-2011年度に慶應義塾創立150年記念未来先導基金プログラムとして開始した正式名称「グローバル・ビジネス・フォーラムによる日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育」を継続するもので、2013年度はその第2期1年目になる。

上記プログラムでは、日本と世界が直面する重要課題を選択して、その解決策、提言を行うことを目的とする。また、専門横断的、世代縦断的融合教育を実施し、プロジェクト、プログラム、フォーラム教育を行う。

この科目は、以下の内容によって構成する。

1. 研究方法論講義 問題発見, 問題設定, 研究手法, 論文の書き方, 発表方法等
2. プロジェクト・プログラム方法論
3. フォーラム講義 専門家によるフォーラム講義
4. プロジェクト研究

履修要件: 「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムについては5月に説明会を行い、申請書により、プログラムへの参加申請を受け付ける。グランド・デザイン・プロジェクト1については、6-8月の準備期間活動を行う。7月に履修申請を受け付ける。

ここで3の一環として、7月に3日間集中セミナーProject& Program Management Seminar for the Grand Designを実施する。本科目の履修者はこのセミナーに極力参加することを勧める。本件は個別に相談してほしい。

9月にプロジェクト題材と、プロジェクト・チームを決定する。7月7日, 8日, 14日のProject & Program Management for the Grand Designを受講する。グランド・デザイン・プロジェクト2については、プロジェクトの進行状況の評価して、学生の研究が最終報告書に貢献するかを審査して11月に決定する。

教育上の利点

1. 重要課題について、学生が自ら問題設定し、調査研究を行い、発表提言する機会
2. 課題チームにおけるプロジェクト・マネジメントの経験
3. 課題検討のフォーラムの企画、マネジメントの経験
4. 塾内外の教育資源へのアクセス、調査研究費の使用

学生の関心を反映した特定のプロジェクト課題を1つ設定し、研究科内外の学生、社会人、数人のチームを形成し、プロジェクト研究を行い、報告書を作成し、具体的提言を行う。プロジェクト課題としては、例えば「スマートシティ評価」、エネルギー産業、「開発途上国向けビジネス」、「都市再生」、「農林水産業」等がある。第3に、統計的手法による分析を強調し、講義と応用を行う。

授業の計画:

本システムは学年途中の修正ができないため、最新版は次を参照してください。

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

成績評価方法:

評価基準: 授業参加, フォーラム参加, プロジェクト・レポート

担当教員から履修者へのコメント:

グランド・デザイン・プロジェクト1, 2は「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムに参加する学生で、単位履修する学生のために提供する。本体プログラムについては、HPを参照のこと。

http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand_Design_Project/index2.html

本プログラムの過去の配信記録

<http://www.ustream.tv/channel/keio-grand-design/videos>

質問・相談:

本科目ならびにグランド・デザイン策定の融合型教育は文章による説明だけではわかりにくい。このため、オリエンテーションを5から6月に数回、行うので希望者は参加してほしい(日程と場所はHP参照 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>)。また、フォーラムについては、科目履修のイベントを、2013年3月20日, 4月20日, 5月11日に予定している(場所は協生館5F, エグゼクティブ・ルーム)。

経営再建論 2単位(2学期)

講師 許斐 義信

授業科目の内容:

本科目では企業の経営危機・経営破綻そして再生に関わる経営を“総合経営”の視点から扱う。経営危機は短期的経営課題と長期的経営課題が依存している。また課題領域も広く、資金繰りをはじめとする財務問題、経営陣と株主や債権者との間のガバナンス問題、そして従業員と経営陣との雇用契約問題、事業の選択と集中が不可避な場合には狭い意味での総合経営、つまり経営戦略的判断など諸問題に対して同時に意思決定をしなければならない。しかも個々の課題は実務的には専門性を強く要求されるので、18時間で本課題の全貌を扱うには大幅に時間が不足している。従って本講座では、できるだけ広範囲に経営再建に関わる総合経営的課題を俎上に上げて討議し、飽くまでも、今後の学習への道しるべを構築することに努めたい。専門的知識

を深めたい希望する学生は個々に教員へ養成して頂きたい。

※履修者に対する担当教員からの要望:

科目履修者には金融機関などで企業再生に携わってきた経営者も求められるであろうが、一方、その種の課題には実務的に触れた経験がない方も居るであろう。そのような状況で講座を進めるには教員側

には工夫が必要だが、併せて履修者側にも、課題と保持しているであろう知見との差を埋めるべく事前学習と討議への参画協力が要請される。

最終講義の内容だが、日本事業再生士協会で行なっている事業再生士(補)の試験を用いて、履修生の自己評価の機会を設けることも、代替案として考えたい。その実施の可否は受講生との討議に依り決定する。

また物理的制約からグループ討議を公式に導入することが困難のため、既定の講義スケジュールは適宜変更せざるを得ない。欠席した場合は次回の講義内容を同僚より聞いて参加することを勧めたい。また1-2ケースではグループ討議に代替して「次回までの宿題」にすることがある。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

講座終了時にレポート提出を要請する。成績は、講座への参画度(出席)とレポートの採点で評価する。時として再生士補の資格試験を行なって欲しいとの要請があり試験をしこともあるが、それをもって成績として公式な評価に利用したことはない。

テキスト(教科書):

許斐義信編著「ケースブック企業再生」中央経済社

(注)一般の教科書的に利用する訳ではないが、講座の進行に併せて自習するためにも、読破頂きたい。

参考書:

許斐義信編著「ケースブック事業再生」中央経済社(上記5とは別の書物です)

尚、数多くの学習を要する領域があるが、受講生の個別的関心や興味に応じて、適宜、参考文献を紹介したいと考えている。特に法律関係の学習が少ない現状を鑑み、倒産法だけではなく、会社法や民法などの参考文献を読まれることをお勧めしたい。尚、講座の中で倒産法に関するテクニカルノートは配布する予定である。

担当教員から履修者へのコメント:

本講座は、経営の凡ゆる領域と関わりがある。従って履修は2年生が好ましいという考えもできる。しかし本大学院では経営スキルの涵養を狙いとしていると考えているので、その意味で、専門科目の履修を決める前に、企業経営問題の総合性に触れることも重要であるから、1年生で履修することも、有意義であると考えている。

質問・相談:

質問や相談を希望する者はメールで問い合わせして下さい。

メールアドレスは事務にてお尋ね下さい。

経営史 2単位(2学期)

講師 平井 岳哉

授業科目の内容:

「日本経営史」として、明治から現代までの日本企業の発展要因を学ぶものです。過去において、「創業」、「成長」、「失敗・倒産」など激動期を経験した企業の事例を毎回題材にして、企業の主体的行動の内容とその背景にある論理・原因について考察するとともに、主としてトップマネジメント層に限られますが、先人達のとった選択の是非について議論します。また、この講義を通じて、時代の変遷に左右されない普遍的な経営システム、あるいは逆に、時代によって変化しつつある経営システムについて、ともに考えていきたいと思えます。

日本史の講義のような企業名・人名・年号を暗記する授業ではありません。歴史を学ぶことによって、みなさんには結果として、現代の企業経営のあり方を歴史から遠視・鳥瞰する力を修得してもらいたいと思います。講義は時代順にほぼしたがいまいます。内容としては、「財閥」、「企業の成長と失敗」、「家族企業と経営者企業」、「戦前と戦後」、「企業グループに属している企業と独立系企業」というように、全コースを通じて複数のテーマを設定しています。毎回事前にケースもしくは論文を配布します。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業でのディスカッションへの参加、レポート

テキスト(教科書):

指定教科書はありません。経営史にご興味のある方は、以下の本を参考書にして下さい。

参考書:

『日本経営史』有斐閣 宮本又郎・阿部武司等著 1995年

『日本経営史の基礎知識』有斐閣 山崎広明代表編集 2004年

『外国経営史の基礎知識』有斐閣 湯沢威代表編集 2005年

ベンチャーキャピタリスト養成Ⅱ 2単位(2学期)

講師 村口 和孝

授業科目の内容:

なぜベンチャー企業は成功したり失敗したり一見不安定に見えるのか。フェイスブックなど新事業に成功するための条件は何か。また前提として、新分野の事業活動、及び資本組織としての企業の創立と発展の本質を、どう理解すればよいか。

技術革新スピードが早く、グローバルに、資本市場と結びついて劇的に変化する現代経済社会の中にあつて、経済フロンティアを切り拓く創業ベンチャー企業を投資支援するベンチャーキャピタル(VC)の重要性が世界的に高まっている。ところが金融機関の関係会社として1970年代にスタートした日本のVC産業は、これまで欧米に比べ創業支援の社会的機能を果たしてきたとは言い難い。投資事業有限責任組合法が施行になったころから、日本でも創業支援に重きを置く「クラシックVC」が登場した。その代表が、私が運営する日本テクノロジーベンチャーパートナーズ(NTVP、1998年創立)である。投資先にはエイケアシステムズ、ジャパンケーブルキャスト、ウォーター

ダイレクトなどがある。成功ケースとして、携帯サービスのモバゲータウン成功で話題となったDeNA(創業:南場智子)、XML応用ソフトウェア開発のインフォテリア等を、創業から経営に関与し、数々の困難を乗り越え東証マザーズに上場させた。

本講座は、NTVPにおけるDeNAやインフォテリア等のキャズムを超える創業支援体験を踏まえ、使用テキストの読み込みを軸に、ベンチャー創業活動および経営の実際を総合的に理解する。またVCファンド設立契約実務、投資候補先の審査や、投資後の長期的関与の考え方と手法を、実体験を通じて学ぶ。おそらく日本で初めての現場で活躍するベンチャーキャピタリストによるキャズムを越えようとするベンチャー経営、ファンド設立、及び投資先支援、回収の実践講座である。上場ベンチャー起業家や、弁護士、会計士、司法書士、社労士などゲスト実務家も随時招く。

なお本講座は、座学のみでなく、講座の時間の中で、慶應大学理工学部・大学院(矢上)において毎年実施される会社創業体験プログラムの授業と連携して、チームに分かれてVCファンドに実際に創設運営し、VC役を担い、理工学部生・大学院生の矢上祭における模擬店など小事業に対し投資して実際に支援し、ファンドとしての結果を競争して出してもらおう。また、理工学部講義に参加して学部生・大学院生を指導する。その過程で、事業計画の評価や投資および小会社運営への関与の実践を通じ、会社経営およびVC投資活動を考察し、発表しあう。

また、今年はKBS自由科目の8月夏季集中スタートアップ創業体験プログラム(準備中で未定)の支援活動も授業の一部に取り入れる計画である。

さらにベンチャー企業訪問や株主総会出席、チーム活動および対外交流も行う。

各々の体験から随時体験レポートを作成してもらい、理論だけでなく、株式会社運営実務と創業ベンチャーが事業失敗や困難を克服してキャズムを超えていくダイナミックな経営観を身に付けてもらう。したがって真に経営実践および投資実践に興味を持つ、活動的で、能動的な時間を持つようとする受講者のみを対象とする。受動的受講者には厳しく、また通年で受講することが望ましい。

また、講義が始まるまでに「アントレプレナーの教科書」精読が条件で選抜レポートも検討中。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席、レポート提出等を元に評価

テキスト(教科書):

NTVP作成の創業体験ノート、「アントレプレナーの教科書」(ステイブ・G・ブランク著、堤孝志/渡邊哲訳 翔泳社)、「キャズム」(ジェフリー・ムーア著、川又政治訳、翔泳社)、「ビジネスモデル・ジェネレーション」(アレックス・オスターワルダー/イヴ・ピニユ

ール著、小山龍介訳、翔泳社) およびその他会社経営ベンチャー起業活動に関する著書

企業戦略における技術と社会的インパクト 2単位(2学期)

Strategy with social impacts

准教授 岡田 正大

授業科目の内容:

Stimulated by the D-Lab* concept, this course examines how for-profit firms can realize social impacts throughout their core businesses, not through charitable activities, while securing enough economic returns to satisfy investors. The field of interest is so-called the "Base of the Economic Pyramid (BOP)" in Asia and Africa. Businesses at the BOP are often called "inclusive business."

Students who are interested in either business opportunities at the BOP or the possibilities for forprofit firms to be engaged in realizing both social impacts AND economic performance are strongly encouraged to be enrolled in this course.

After surveying basic strategy theories relevant to the "BOP strategy" or "inclusive business strategy," several topics especially pertinent to the BOP will be covered with guest speakers. Those topics include, but not limited to:

- The concept of "shared values" by Porter and Kramer (2006 and 2011)
- the concept of "appropriate technologies" and "reverse innovation"
- the current status of telecom and internet at the BOP market
- the concept and history of "social development"
- the current trend of so-called "social financing", which include micro-finance

2. In-class projects

The class will be divided into several teams and each team will be engaged in a consultation project which deals with new business strategies at the base of the pyramid market. Each team will present a business proposal at the end of the course.

3. Evaluation

50%: class contribution, 50%: project/presentation

*D-Lab is a program at the Massachusetts Institute of Technology (MIT) that fosters the development of appropriate technologies and sustainable solutions within the framework of international development. D-Lab's mission is to improve the quality of life of low-income households through the creation and implementation of low cost technologies. D-Lab's portfolio of technologies also serves as an educational vehicle that allows students to gain an optimistic and practical understanding of their roles in alleviating poverty through business activities.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

class participation 50% and group projects 50%

テキスト(教科書):

Hart SL. 2007. Capitalism at the Crossroads: Aligning Business, Earth, and Humanity.

Pearson Education Inc. : Upper Saddle River, NJ.

参考書:

Hart SL, Christensen CM. 2002. The great leap: driving innovation from the base of the pyramid. MIT Sloan Management Review 44(1): 51-56.

London T, Hart SL. 2004. Reinventing strategies for emerging markets: beyond the transnational model. Journal of International Business Studies 35: 350-370.

Porter ME, Kramer MR. 2006. Strategy & society: the link between competitive advantage and corporate social responsibility. Harvard Business Review December 2006: 1-13.

経営実務講座—同窓生から現役生へ— 1単位(2学期)

教授 磯辺 剛彦

教授 河野 宏和

授業科目の内容:

KBSは、3200名を超える卒業生をこれまでに輩出し、彼らはビジネスの最前線で活躍している。彼らが直面してきた課題や課題解決の

工夫・苦労は、ビジネススクールで学ぶ者にとって、まさに生きた教材である。彼らの知見を共有することは、これからビジネスリーダーとして社会を先導していく現役の学生にとって、貴重な学習の機会になると期待される。

世界各地の様々な業界で活躍しているKBSの同窓生を、毎回1名ずつ招聘して講演と質疑を行う。業界・エリアに関するユニークな知見や、経営実務の現場における成功・苦労両面からのリアルな実体験(教科書では分かりにくいこと)、およびそこから得られた視座についてお話しいただく。また、ビジネス面での話題や内容にとどまらず、同窓生として在校生に伝えたいこと、KBSで学んだことが卒業後のキャリアどのように役立っているか、KBSで学ぶ機会をどう活用すべきか、在学中に学ぶべき視点、というような在校生へのメッセージなども含め、担当教員を交えてディスカッションする。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席、ミニレポート(毎回の授業後ゲストスピーカーへの送付を考えている)

テキスト(教科書):

特になし

参考書:

特になし

ケースメソッド教授法 2単位(2学期)

教授 高木 晴夫

特任准教授 竹内 伸一

授業科目の内容:

本科目では、履修者の皆さんに、ケースメソッドで教える側の世界を垣間見てもらいます。ケースメソッド教授法を座学形式で講義するのでは実践性に欠けますので、クラスでは、①「ケースメソッドで教えるときに教室で生じる諸問題」を記述したケースを用いて、②履修者自らが先生役(ディスカッションリーダー)となって、③先生役と生徒役の双方からケースメソッド授業を実際に動かしてみながら、④ケースメソッド教授法について学びます。

教授法の授業ではありますが、履修者全員がいわゆる「先生」になることを目指しているわけではないので、1) 大学教員としてケースメソッド授業を運営するための準備、2) セミナー講師、社内講師、チームリーダーとして、ディスカッションをリードするための準備、3) ディスカッションを通してより広く人間集団を動かすための準備、という3つのゴールを重層的に設定して授業を運営します。履修者はこのうちのひとつ以上のゴールを見据えて履修してください。

授業の中核となるディスカッションリード演習では、ケースメソッド授業の「準備」と「運営」と「振り返り」に焦点を当てます。科目開講中に演習のチャンスが得られるのは6名限りですが、仲間がすぐそばで演習に打ち込んでいる姿を見るだけでも、貴重な学習機会となるでしょう。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業準備ノート全7部の提出でBを保証。1) 授業中の発言や問題提起、2) ディスカッションリード演習へのチャレンジ、3) レポートの提出、などのクラス貢献を勘案して、A以上への成績の積み上げを行います。授業中に獲得・発揮された教授法スキルよりもむしろ学習の場作りへの貢献度に焦点を当てて評価することで、履修者の努力に報いたいと考えています。

テキスト(教科書):

「ケースメソッド教授法入門」、竹内伸一著、高木晴夫監修、慶應義塾大学出版会、2010

参考書:

「ケースメソッド教授法」、バーンズほか著、高木晴夫訳、ダイヤモンド社、2010

「実践! 日本型ケースメソッド教育」、高木晴夫、竹内伸一共著、ダイヤモンド社、2006

英語ビジネス・コミュニケーション I 2単位(2学期)

英語ビジネスコミュニケーション I

講師 定森 幸生

授業科目の内容:

1学期に予定している「英語ビジネスコミュニケーションII」と同じ開講趣旨に基づいて授業を行うが、「英語ビジネスコミュニケーションII」が、主として2年目の国際プログラムに参加する学生が受講することを想定して1学期に開講するのに対して、「英語ビジネスコミュニケーションI」は、早い時期からグローバルビジネスの最前線が必要とされる英語力を確認したい1年目の学生が履修しやすい時期に開講するものである。6週間程度の集中授業を予定しているが、「英語ビジネスコミュニケーションII」より若干基本的な演習にウエイトを置いた授業を想定している。但し、何れのコースも、特定の学年に限定せずに履修を認める。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。(本年5月以降に掲載する予定)

成績評価方法:

事前課題の提出、クラスでの発表を総合的に勘案した絶対評価とする。

テキスト(教科書):

教科書は指定せず、事前課題で reading materials を指示するほか、インターネットを利用したビデオコンテンツを教材として活用する。

担当教員から履修者へのコメント:

短期集中の授業でのグローバルビジネス・コミュニケーションの演習なので、コースワークは英語で行うことを原則とするが、必要に応じて日本語でのフォローも行う。

起業体験 2単位(秋学期)

講師 西戸 雄太

講師 村口 和孝

授業科目の内容:

夏季短期集中起業体験プログラムに向けて「会社経営の傍観者から、主催者へ」

特にサラリーマン経験者が、ビジネススクールにおいて会社経営を学ぶ場合の問題点は、組織の部署のメンバーでしかない事を前提とした、つまり視野狭窄に陥ったままの会社観で物事を分析してしまう点である。

例えば、会社経営において株主総会や取締役会は経営の根幹の組織であるが、数年サラリーマンを経験した優秀な学卒者が関与する機会はほとんどない。また、大会社のサラリーマンは、仮に経理部に配属されていたとしても、自ら会社の会計帳簿を記帳し、貸借対照表や損益計算書を作成したことはない。すべてシステム化されてしまっている大企業のサラリーマン経験が、必ずしも会社経営を勉強するに十分なビジネス経験とは言えないのである。

このような現状を短期間で克服し、会社経営の全体構造を体験的に早い段階で理解していることは、大変重要なことである。そうでなければ、ビジネススクールでいくら学んでもスティーブジョブズやザッカーバーグにはなれないであろう。会社経営の全体を理解するとは、例えば次のような問いに対する自らの見解を持つことである。

1. 資本を調達する仕組みである株式会社制度を説明せよ。
2. 事業とは何をどうする事か説明せよ。
3. なすべき事業に何を選ぶべきか、何が儲かるか、意味があるか、選び方を説明せよ。
4. 会社経営に関係する司法書士、弁護士、会計士の役割を説明せよ。
5. 事業環境が変化した時、事業計画をどう変更すればよいか説明せよ。
6. 事業活動の価値と、株主が利益を得る仕組みを説明せよ。
7. 取引の記帳から決算書が出来あがる仕組みを説明せよ。
8. 起業家の心得を述べよ。
9. 起業投資家であるベンチャーキャピタリストの役割について説明せよ。

おそらく、以上の起業家にとっては当たり前の質問に大企業サラリーマン経験者は戸惑うであろう。ただし、膨大な細かい事業経験の知識を覚えることは必要ない。それは結婚する人がするよう、事業を担う人としての人生上での覚悟をするようなものである。

一番わかりやすい早道の一つは、実際に小さい事業でよいから体験してみることである。

この夏季短期集中起業体験プログラムは、一か月という限られた時間内で、投資家と交渉して自らの株主となり、会社を興し、模擬店事業を準備実行し、販売活動し、決算書を作成し、株主総会を、傍観者でなく主催者として体験する。この集中的な一通りの体験によって、参加者は、まじめに取り組みれば、楽しみながら、必ず株式会社の仕組みについての基本的な知識を包括的に身につけられるようになる。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席、レポート提出等を元に評価

ブランド戦略 2単位(2学期)

特別招聘教授 首藤 明敏

授業科目の内容:

■講義目的

ブランド戦略に関する理解を図るとともに、実際の企業経営の中でブランドに関する意思決定やマネジメント課題解決の立場に立った時に有効な、実践的な知識や思考方法(論理思考と感性思考の融合)を学習する。

■講義要旨

ディスカッション+講義の形式で学習する。ブランド戦略の実践に必要な思考法、フレームワーク、実践法を、さまざまな事例を題材にディスカッションしながら進めていく。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

発言の量&質50%、レポート50%

テキスト(教科書):

図解ブランドマーケティング(新版)

博報堂ブランドコンサルティング著 日本能率協会マネジメントセンター 2009年

参考書:

ブランド・リーダーシップ『見えない企業資産』の構築

デービッド.A.アーカー、ダイヤモンド社 2000年

参考URL

<http://www.hakuhodo-consulting.co.jp/>

ビジネス・ゲーム 2単位(2学期)

講師 許斐 義信

講師 岡田 哲男

授業科目の内容:

日本の鉄鋼業をモデル化したゲームを使用する。

ビジネス・ゲームは、参加者が8〜12人単位で企業一社を構成し、各社が同一市場で事業業績の向上を目指して激しい競争を展開する、いわゆる模擬経営の場である。経営環境は刻々と変化するので、経営の転換点を的確に把握し、営業・製造・研究開発・資金・人員配置などについて総合的判断、経営問題の定義、定義した課題に関して的確な経営計画の策定そしてその実行など多岐わたる経営判断を求める。

各コースで学んできた会計、組織と人間、情報システム、マーケティング、生産、財務の諸分野における概念や技能を駆使した企業間競争の展開を通じて、参加者は、経営の各分野間の協調の重要性とマネジメントの役割とについての討議し試行しながら、その経営における位置づけと、経営問題の定義そして総合経営の要諦について認識を深めることを迫られる。数日に縮められた、数年分の模擬経営は戦略策定の場であり組織生成過程の体験の場であり、経営管理制度構築の場である。また、組織における人間行動の本質を見る機会にも遭遇する。当コースは全体の約半分のセッションを合宿(2泊3日)にて行う。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

模擬経営終了後、チームに依る分析と発表・討議を行う。

その後、個人レポートを提出、基本的には出席とレポートで採点する。

テキスト(教科書):

ビジネスゲームの解説など数点のテクニカルノートを事前に配布する。

参考書:

図書館にはビジネスゲームに関する数冊の拙著があるので、関心がある方はお読み頂くことも可能である。

担当教員から履修者へのコメント:

経営を総合的に認識・経営課題の解決を如何にすべきか、に関して仮説や問題意識を持って参加頂きたいと希望します。

質問・相談:

質問・相談がある方はメールしてコンタクトが可能。
メールは事務にて問い合わせ頂きたい。

総合経営 A 4単位(3学期)

総合経営 B 4単位(3学期)

教授 磯辺 剛彦
准教授 岡田 正大
教授 小林 喜一郎

授業科目の内容:

本コースでは、企業の経営政策・戦略 (BPS: Business Policy and Strategy) 上の諸課題について、企業として好業績 (Above average return) を達成していくためには何をしなければならぬのかと言う前提のもと、トップ・マネジメントの視点に立って戦略的な企業経営のロジックを学習し、状況分析に基づいて具体的な戦略立案並びに実行を指揮するための訓練を行うことにその狙いがある。

以上をカバーするケースの内容として、

1) コーポレートレベル戦略および事業レベル戦略

- ・ 企業の経営理念と経営者の役割
- ・ 事業ミッションとドメイン定義
- ・ 企業外部環境と内部資源分析 (含むSWOT)
- ・ グローバル戦略
- ・ コア・コンピタンスと経営資源蓄積・調達・育成
- ・ 資源配分戦略
- ・ 組織と戦略の整合性
- ・ 戦略策定における定量的分析多角化の類型と方法論
- ・ 産業組織論的分析視覚に立った業界構造分析の基本 (5つの競争要因分析、国の競争優位)
- ・ 業界構造に対応した基本戦略 (差別化、コスト、フォーカス他)
- ・ 業界の収益性を規定する要因の分析 (参入・撤退障壁、移動障壁と戦略グループ)
- ・ 事業レベルでの競争戦略
- ・ 戦略の実行上の課題 (Implementation) 等

2) イシューオリエンテッドなテーマ

- ・ ネット経済下での競争戦略
- ・ ITの産業へのインパクトとバリューチェーンへの影響
- ・ 知的所有権問題
- ・ コーポレートガバナンス
- ・ BOP攻略等

3) 対象となる組織形態

- ・ 大企業とベンチャービジネス
- ・ NPO・NGO
- ・ 製造業、サービス業

を予定している。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

クラス貢献度40%、2度の筆記テスト60% (出席は規定通り)

テキスト(教科書):

「競争の戦略」(マイケル・ポーター著) 土岐他訳、ダイヤモンド社

参考書:

その都度資料配布

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: グローバル戦略経営論 (磯辺)・競争戦略論 (小林)・戦略コンサルティング (小林・岡田)・企業戦略における技術と社会的インパクト (岡田: IP)・経営戦略におけるアントルプレナーシップ (須賀: IP)

経営科学と意思決定 2単位(2学期)

経営科学と意思決定 2単位(3学期)

Management Science and Decision Making

准教授 安道 知寛

授業科目の内容:

This course combines lectures and case studies. Course objectives are to understand qualitative judgment frameworks and to bridge the gap between the frameworks and their practical use. By the end of the course, you will learn the basic concepts of qualitative judgment frameworks. Importantly, a skill for implementing them in practice is acquired.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class attendance, Report (Tentative)

テキスト(教科書):

None.

参考書:

None.

担当教員から履修者へのコメント:

Details of class format is explained at the first class.

財務理論 2単位(3学期)

准教授 高橋 大志

授業科目の内容:

経営者や財務プロフェッショナルとして最適な意思決定を行うために不可欠な金融資産の評価についての理解を深めることを目的とする。

はじめに、資本資産価格評価モデル(CAPM)、金利の期間構造、およびポートフォリオ理論などに関する討論を行った後、派生証券の評価およびその応用について議論を行う。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

小テストおよびレポートを基に評価を行う。

テキスト(教科書):

『金融工学入門』デービッド・G.ルーエンバーガー、日本経済新聞社、2002。

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目として、財務管理、国際財務管理などがある。財務理論においては、資産価格評価に関する専門的知識を深めることを目的とする。

金融機関経営 2単位(3学期)

准教授 齋藤 卓爾

授業科目の内容:

本コースでは、企業経営者・財務担当者、あるいは財務アドバイザーに不可欠な企業財務(コーポレート・ファイナンス)に関する理論と実践的な知識を身につけることを目指します。(科目名は「金融機関経営」ですが、内容はコーポレート・ファイナンス、企業財務であることに留意して下さい。)具体的には新規株式公開、情報開示、敵対的買収、垂直統合、バイアウトなどについて講義とケースを通して検討していきます。基礎科目である「財務管理」で齋藤が担当した部分の応用編と考えて下さい。本クラスでは「財務管理」とは異なり、海外の事例も取り扱います。M&Aなどを通して多くの日本企業が国際化を進めると同時に外国人投資家が日本企業の株主として大きな影響力を持ち始めた現在において、海外の事例を学ぶ意義は極めて大きいと考えられます。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

主に授業への貢献、ケース分析

テキスト(教科書):

なし

参考書:

適宜紹介します

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 「財務管理」「国際財務管理」

日本における財務管理 2単位(3学期)

准教授 小幡 績
特別招聘教授 張 秋華

授業科目の内容:

We will offer an opportunity to understand "real" Japan. We try to cover Japanese financial market as well as Japanese culture, society, and Japanese people. Chang will offer you a big picture of Chinese economy and Chinese financial sector.

授業の計画:

KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Group Presentation, and class contribution

テキスト(教科書):

N.A.

参考書:

N.A.

担当教員から履修者へのコメント:

Please bring your interest and excitement as to Japan.

財務報告分析 2単位(3学期)

教授 太田 康広

授業科目の内容:

本コースでは、ビジネスに必要な情報を財務諸表から読み取る能力を身に着けるため、財務諸表分析と企業価値評価の手法を習得し、その応用事例を議論する。

今年は、ROE(自己資本利益率)やROA(総資産利益率)、酸性比率、流動比率といった財務指標の分析方法のほか、効率的市場仮説、資本コストの計算方法、さらに、割引キャッシュ・フロー・モデルや残余利益評価モデルのような企業価値評価モデルについても講義する予定である。さらに、いわゆる「実証会計理論」の3つの仮説(経営者報酬仮説、財務制限条項仮説、政治コスト仮説)を説明したあとに、アクルーアルと利益マネジメントについての最近の研究にも触れる。

授業の計画:

KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

発言点10パーセント、宿題30パーセント、クラス発表30パーセント、レポート30パーセント。

テキスト(教科書):

なし

参考書:

K. R. Subramanyam and John Wild, Financial Statement Analysis, McGraw-Hill/Irwin 10th edition, May 19, 2008.

Stephen H. Penman, Financial Statement Analysis and Security Valuation, 3rd edition,

McGrawHill, 2007

担当教員から履修者へのコメント:

全員が履修済みの基礎科目・会計管理の知識を前提とする。

タックス・プランニング 2単位(3学期)

准教授 村上 裕太郎

授業科目の内容:

このコースでは、所得税・法人税・相続税の基礎とタックス・プランニングの手法を学習する。タックス・プランニングの手法は、細かな節税テクニックとは異なり、より応用範囲の広い税務戦略である。また、税制についての研究もとりあげ、現在の税制の問題点や望ましい税制のあり方等についてもディスカッションする予定である。

税の問題は、財政学、公共経済学、会計学、税法、ファイナンス等、さまざまな知識が必要になるが、それらをバランス良く身につけることが望ましい。

授業の計画:

KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席+授業貢献点: 30%、宿題: 30%、期末レポート: 40%

テキスト(教科書):

主に配布資料およびケース

参考書:

Scholes Myron S., Mark A. Wolfson, Merle M. Erickson, Edward L. Maydew, and Terrence J. Shevlin (2008) Taxes and Business Strategy: A Planning Approach, 4th edition, Prentice Hall.

ビジネス統計 2単位(3学期)

教授 林 高樹

授業科目の内容:

本授業では、ビジネス実務において必要となる基本的な統計的手法を理解し、これらの手法を実際に応用できるようになることを目指す。必要に応じてソフトウェアを利用しながら学習する。

授業の計画:

KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業への貢献度、個人課題、グループ課題、小テスト等の結果により評価します。

担当教員から履修者へのコメント:

1学期自由科目「統計学入門」履修程度の知識を前提とします。

情報と意思決定 2単位(3学期)

教授 大林 厚臣

授業科目の内容:

当科目の狙いは、主として企業経営の場面において質の高い意思決定をするための参考になることです。内容としては、意思決定の理論と手法の紹介、情報の有効な利用、事例を用いた意思決定の演習などが含まれます。

意思決定の研究を大別すると、オペレーションズ・リサーチや経済学などで中心的な、「どのように意思決定をすべきか」という規範的アプローチと、認知科学や心理学などで中心的な、「人は実際にどのように意思決定をしているか」という記述的アプローチに分けられます。当科目では主として規範的アプローチを用いますが、学問領域にこだわらず、意思決定に役立つと考えられる内容を多面的に紹介します。

具体的な内容は次のようなものです。

意思決定の構造とモデル。規範的アプローチである合理的意思決定の特徴と限界。企業経営における意思決定の特徴や、コーポレート・ガバナンスの問題。

ゲーム理論とその経営戦略への応用、信用形成、コミットメントなどへの含意。通常はそれぞれ別の理論として紹介される、交渉理論、探索理論、競争市場理論を、統一した枠組みで比較検討します。インセンティブとエージェンシー理論。

人間のリスクに対する態度、企業におけるリスクマネジメントや危機管理、社会の防災に関する課題。リスクマネジメントおよびリーダーシップに関する意思決定の演習。

授業の計画:

KBS在生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

授業中の貢献度と期末レポートを、それぞれ50%のウエイトで評価します。レポートは授業で扱う視点や理論のどれかを選んで、自分の興味があるテーマに応用して書いてもらいます。

参考書:

授業用のレジュメを配布します。レジュメは、各回のレクチャー(L) クラスに持参して下さい。

人的資源戦略 2単位(3学期)

専任講師 大藪 毅

授業科目の内容:

ヒト・モノ・カネ、いわゆる組織の3資源である。本講はその第一、「ヒト」すなわち人的資源のマネジメント(=HRM)に関する科目である。だがヒトの能力や適性は他の資源より可視性が低い。にもかかわらず、それを組織としてどのように活用すればよいのか、根本的にマネジメントがむずかしい分野でもある。ゆえにその時々々の状況やその場の雰囲気、メンバーの主観的、時には利己行動などに影響され、いわゆるゴミ箱モデルの選択に陥りやすい部分でもある。

現実に自社の評価や能力開発、処遇などの制度をどう設計するのか。またそれはどのような思想と理論、そして自分達の状況認識にもとづくのか。組織で人材をうまくマネジメントし生産性を上げるには、

勘や流行の手法に安易に頼るのではなく、経営者とマネージャーは自身で有効なロジックを組み立て、周りを納得させる必要がある。実際、士気および労働生産性が高い組織・職場を調べると、しっかりした人材思想とマネジメントのロジックが存在していることがわかる。

また雇用環境の変化が速い昨今、個人も企業HRMの考え方を踏まえてキャリアを考える必要がある。よいキャリアとは行く先々で頑張って貢献し、評価・感謝されることの蓄積の結果である。この意味で、HRM知識は人事スタッフだけでなくマネージャー・経営者も必須であり、また自分のキャリアを考えたい個人にも参考になると考える。

なおこの科目はグループプレゼンとクラスディスカッションによって行う。前提として受講生は事前に教科書の該当部分を予習して出席すること。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

成績は出席・貢献(授業・プレゼン)・最終レポートによる個人部分と、グループプレゼンテーションによる集団部分を合計して算出する予定。※ただし受講人数および状況によって変更がありうる。

テキスト(教科書):

人的資源管理論 理論と実践 八代充史 中央経済社

長期雇用制組織の研究 大藪毅 中央経済社

参考書:

人材の複雑方程式 守島基博 日経文庫

ストレス・マネジメント 2単位(3学期)

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

目的:

本授業では、人々が経営組織という環境で働くがゆえに経験する「ストレス」を、組織の立場から、また個人の立場からどのようにマネージできるかについて、組織心理学・組織行動論・臨床心理学の観点から考察を行ないます。本授業では、「ストレス・マネジメント」の概念を幅広くとらえ、いわゆるストレス学説やストレス研究だけに焦点を絞るのではなく、組織心理学・経営行動科学が今取り組んでいる最先端の研究テーマを追いながら、この問題を考えていきます。

授業の進め方と課題:

授業は、毎回2部に分けて行ないます。第1部ではショート・ケースを用いた討論および心理テスト演習を通じて学びます。実際の会社や職場で起こったケースを事前に配布しますので、1時限目の約40分をグループ討論、50分をクラス討議に当てて議論します。心理テストの場合は、授業時間の中で、あるいは授業時間外に、WEBを用いて自分自身を被験者としてテストを行なってもらいます。

第2部では、事前に配布した資料をもとに、予め設定したテーマに沿って講義&討論を行ないます。参加者は事前に配布する資料をよく読んで、グループおよびクラスのディスカッションで自分の意見を発表してください。

毎回リーディング・アサインメントを出しますので、受講者はそれらを読み、簡単なレポート(A4、2~3枚程度)を授業のときに提出してください(レポートに求めるものは論文・評論・ケースに対する「批判」や「自分の意見」です)。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

期末テストはレポート(ターム・ペーパー)の提出で代替します。レポートのテーマについては授業中に示唆します。また個別の相談にも応じます。評価は、①中間レポート=30%、②クラスでの発言=20%、③期末レポート=50%、で行ないます。

テキスト(教科書):

Kets de Vries, M. & Miller, D. 1984 The Neurotic Organizations. CA: Jossey-Bass. (渡辺・尾川・梶原監訳 1995「神経症組織」 亀田ブックサービス)

Hirschhorn, L. 1993 The Workplace Within. MA: The MIT Press (渡辺・伊藤・今井監訳 2013「職場の精神分析」 亀田ブックサービス【準備中】)

参考書:

授業中に指示します。

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 組織マネジメント

多国籍組織・戦略 2単位(3学期)

Multinational Organizations and Strategy

教授 浅川 和宏

授業科目の内容:

This course focuses on the international dimensions of organizations and strategy, and provides frameworks for analyzing international business environment, formulating global strategies, and designing multinational organizations in an increasingly complex world economy. We delve into the theoretical frameworks as well as practical skills that managers need to deploy to help their firms stay ahead of their competitors. Class discussions will be based on lectures, readings, and case analysis on Japanese and non-Japanese multinational corporations.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class participation: Individual participation 60%, Team class presentations 10%, Group assignment 30%

市場戦略論 2単位(3学期)

教授 池尾 恭一

授業科目の内容:

企業の持続的成長は、標的とする市場のあり方に応じた、絶え間ない創造的市場適応と、それに必要な独自資源の蓄積と展開に依存する。

本コースでは、それらを実現していくためのシナリオを市場戦略と捉え、市場環境としての消費者行動や買い手行動の捉え方、市場戦略策定の方法と方向、ならびに市場戦略実行手段としてのマーケティング・プログラムとの関係を学習する。

授業は主に講義とケース討議によって進められる。

また、受講者には、最後にグループ単位でのレポート作成が求められる。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

成績評価は、通常の授業貢献および最終のグループレポートに基づいて行われる。

テキスト(教科書):

池尾恭一、『日本型マーケティングの革新』、有斐閣。池尾恭一、『モダン・マーケティング・リテラシー』、生産性出版。

担当教員から履修者へのコメント:

基礎科目「マーケティング」の上級コースとして位置付けられる。

消費者行動 2単位(3学期)

准教授 坂下 玄哲

授業科目の内容:

企業がマーケティング戦略を効果的に展開してゆく上で、市場に対する適切な理解を深めることは、これまで以上に重要な問題となっている。本講義では、特に消費者行動の多様性という側面に焦点を当て、消費者行動の内的・外的要因という視点から、理論的、実践的検討を加える。具体的な授業形式(予定)としては、①講義および事例検討、クラス内演習や文献購読、ケース討議などを通じ、購買意思決定をはじめとする消費者行動を解明するためのさまざまなアプローチやキー概念について理解する。その上で、②具体的なテーマに沿ってグループ単位でプロジェクトを実施し、消費者行動に関する実践的理解を深めることを目指す予定である。なお、講義内容やスケジュールは変更の可能性はある。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

出席や授業内発言、ケース討議やプロジェクト報告をベースに総合的に評価します。

参考書:

杉本徹雄編著『消費者理解のための心理学』、福村出版、1997年

マーケティング・コミュニケーション論 2単位(3学期)

教授 井上 哲浩

授業科目の内容:

本科目は、企業の市場に対して行うコミュニケーションをマーケティング・マネジメントの見地から捉え、広告や広報そしてプロモーションなどの活動に加え、IMC(統合マーケティング・コミュニケーション)やメディア・プランニングそしてクロスメディアなどのメディアとしてのマーケティング・コミュニケーションを、文献精査、事例検討、ケース分析、グループ・プレゼンテーション等を通して学ぶ予定である。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

40%アサインメント(グループ単位)

20%授業参加

40%Final Presentation

テキスト(教科書):

岸、田中、嶋村著『現代広告論 新版(有斐閣アルマ)』有斐閣、2008年。

参考書:

田中・清水編著『消費者・コミュニケーション戦略—現代のマーケティング戦略(4)(有斐閣アルマ)』有斐閣、2006年。

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目:マーケティング基礎、市場戦略論、流通論、消費者行動論、日本におけるマーケティング

日本におけるマーケティング 2単位(3学期)

准教授 坂下 玄哲

授業科目の内容:

The aim of this course is to deepen the students' understanding of marketing operations in Japanese companies. The first half of the course will consist of lectures on Japan's unique marketing environment, while in the second half, students will be divided into groups for field studies on marketing operations in actual companies. At the end of the course, students will be required to give presentations on their findings. The contents and schedule are tentative and may change.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class participation and Group Project Evaluation

生産システム設計論 2単位(3学期)

教授 河野 宏和

授業科目の内容:

製品やサービスを提供する活動や間接部門での事務作業をスリム化・効率化していくことは、戦略を実行するオペレーション・レベルの「基礎体力」を強化するためにも重要である。そのための手法や考え方を身につけるためには、実際の生産や営業の現場へ足を運んで自ら現状の仕事のプロセスを分析し、現物に触れながら改善のアイデアを考えていくような実践的なアプローチが大切である。本コースでは、改善に関する基礎概念を学んだ後、実際の工場での実習活動を通じて、自ら課題を設定・明確化し、それに基づいてデータを集めて分析し、問題点や改善案を考え出す「問題解決」プロセスを、フィールドワークにより学習することを目的とする。これまでは、以下のようなテーマを取り上げて実習活動を行っている。

1. 営業部門からの情報の流れの分析、発注方法・生産計画の立案方法と在庫削減
2. 組立ラインにおける作業性、品質、生産性の向上
3. 機械加工ラインにおける製品品質や生産能力の向上
4. 物流活動におけるスペース削減と工数低減、など

テーマは受講生の人数と希望に応じて毎年3〜4テーマを設定し、数名のグループ単位で実習作業を行

い、実習先企業での報告会とグループ・レポート提出を行う。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

フィールドワークの参加度での評価。個人レポートはなく、グループでの会社への報告会とレポートで代替する。

テキスト(教科書):

特になし

参考書:

特になし

日本における生産管理 2単位(3学期)

特別招聘教授 柿内 幸夫

授業科目の内容:

In the manufacturing industry, the profit may be different according to the way in which production is done. Initially production should be done with required quality and in a fixed schedule, while keeping facilities in good condition, stocking the inventory properly, training the staff such as operators to execute protocol and so forth are required.

Therefore in order for production management in Japan, to achieve business objectives, what is required is not only management direction of future strategies and policies, but also the ability of operators to carry out those requirements on shop floors.

This means production management in Japan is not only done by the decision of management but also done by the activities performed by the people on shop-floors. And continuous improvement or "Kaizen" is also an important factor to support the Japanese production industry.

In this course, both the strategic side and shop floor activity side will be discussed but the activity side may be discussed in more detail.

Basic activities for Japanese production management 5S, KZ method(company-wide discovery of problems on shop-floors)

Kaizen activities, Seven wastes or "Muda's" of Toyota system,

Exercise: Four Principles of Motion Economy.

Cost down activity by labor productivity improvement and inventory

reduction, Exercise: Flow Production Production Systems of Japanese

Motor Industry Presentation: Nissan production way

(Guest lecturer NPW manager Mr.Hiroshi Ichikawa)

Execution of Kaizen by all employees Presentation: Kaizen activity by all

the company members (Guest lecturer Kawakami Industry Co., Ltd.

President Mr. Hajime Kawakami)

Quality Management, QC circle activities. Presentation: Nissan Motors'

QC Circle Activity (Nissan QC manager Mr. Makio Satoh)

Making machines in-house.

Work training

Simplifying production by process integration and visualization of production plans

The course will include a plant tour to a factory which stresses the importance of shop floor management.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Class participation 50%, Short essay each lecture 50%, (Attendance more than 2/3 required)

テキスト(教科書):

Materials will be delivered in class.

経営法学Ⅱ 2単位(3学期)

講師 一色 正彦

授業科目の内容:

・学習目標

本科目では、事業経営に必要な法分野(会社法、独占禁止法、特許・商標・意匠・著作権法、契約法)について、法律の価値とリスクを理解した上で、有効に活用する方法論(コンプライアンス、リスクマネジメント、交渉学)を学ぶ。具体的には、①リーガルリスクの理解と実践的マネジメント(リーガルリスク・マネジメント)、②知的財産の価値とリスクを理解した有効活用(IPマネジメント)、③論理的に準備し、心理的な畏れを乗り越えた問題解決のための交渉(ビジネス・ネゴシエーション)の3分野について、実際に発生した事

例に基づき、なぜ、その問題が発生したか、どのような問題解決の選択肢があったのか、そして、同様の問題に対して、実際に先進企業がどのように対応しているかについて、講義と演習により理解する。これらを通じて、受講者が、今後、経営を担う立場として、弁護士・弁理士等の法律の専門家を有効に活用して、事業の成功確率を上げる能力を身に付けることを目標とする。

・概要

2セッションで1主題を基本とし、毎回、グループ演習によるケーススタディーを行なう。前半は、主題に関する前提知識の講義を行なう。後半は、グループ単位で、具体的な課題に対する議論を行なう。その後、各グループが検討結果を発表し、その内容に対して、講師と受講生がインタラクティブに議論する。主題により、特定分野の実務家（企業経営者、法務・知財マネージャー、弁護士・弁理士等）が議論に参加する。全セッションを通じて、8ケースを学習する。そのうち、3ケースは、ロール・シミュレーション（1対1、2対2による模擬交渉）を行なう。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

課題レポート（1回）と授業貢献。

課題レポートは、主題の中から特定分野、または、全体について、論述する。授業貢献は、グループ演習のメンバーによる相互評価（クロス・エバリュエーション）で行なう。クロス・エバリュエーションは、グループ演習の課題検討に貢献できたか否かの自己評価、他のメンバーの貢献者（1名）を理由と共に記載する方法で行なう。本科目は、議論が中心であり、積極的な授業貢献は高く評価する。

テキスト(教科書):

特に指定教科書はないが、各主題毎に、推薦図書リストを当日配布する。

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 経営法学I (Business Law I)

日本の経営環境 2単位(3学期)

Japanese Business Environments

教授 中村 洋

授業科目の内容:

This course examines Japanese business environments, especially, its economy, companies, markets and consumers. This course will consist of lectures, case discussions, and team projects. In the team projects, our students are expected to "explore" Japan by themselves.

The following topics will be covered in this course;

I. Japanese economy & history

- An overview of Japanese economy from the 1950s to 2010s
- Problems of non-performing loans
- Strength of the Japanese Economy
- Issues for the future: national economic burden, utilization of foreign work force, and impacts of demographic changes on Japanese economy

II. Japanese companies

- Structure & corporate governance
- Organizational learning and purchase-supply relations in Japan

III. Japanese markets and consumers

- Characteristics of Japanese consumers and markets
- How to achieve success in Japan: entry barriers and key success factors in the Japanese markets

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

Assessment is ongoing throughout the course and is based on student participation in both lectures and group works.

グランド・デザイン・プロジェクトII 2単位(3学期)

Grand Design Project 2

教授 姉川 知史

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

本科目は「グランド・デザイン策定の融合型教育」(HP参照)に参加する学生で、単位履修する学生を対象とした科目であり、2学期の「グランド・デザイン・プロジェクト1」と、3学期の「グランド・デザイン・プロジェクト2」で構成する。グランド・デザイン・プロジェクト2の1科目だけでも履修可能。

「グランド・デザイン策定の融合型教育」は2010-2011年度に慶應義塾創立150年記念未来先導基金プログラムとして開始した正式名称「グローバル・ビジネス・フォーラムによる日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育」を継続するもので、2013年度はその第2期1年目になる。

上記プログラムでは、日本と世界が直面する重要課題を選択して、その解決策、提言を行うことを目的とする。また、専門横断的、世代縦断的融合教育を実施し、プロジェクト、プログラム、フォーラム教育を行う。

この科目は、以下の内容によって構成する。

1. 研究方法論講義 問題発見, 問題設定, 研究手法, 論文の書き方, 発表方法等
2. プロジェクト・プログラム方法論
3. フォーラム講義 専門家によるフォーラム講義
4. プロジェクト研究

履修要件: 「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムについては5月に説明会を行い、申請書により、プログラムへの参加申請を受け付ける。グランド・デザイン・プロジェクト2については、秋に履修申請を受け付ける。

ここで3の一環として、7月に3日間集中セミナーProject& Program Management Seminar for the Grand Designを実施する。本科目の履修者はこのセミナーに参加することを勧める。本件は個別に相談してほしい。

教育上の利点

1. 重要課題について、学生が自ら問題設定し、調査研究を行い、発表提言する機会
2. 課題チームにおけるプロジェクト・マネジメントの経験
3. 課題検討のフォーラムの企画、マネジメントの経験
4. 塾内外の教育資源へのアクセス、調査研究費の使用

学生の関心を反映した特定のプロジェクト課題を1つ設定し、研究科内外の学生、社会人、数人のチームを形成し、プロジェクト研究を行い、報告書を作成し、具体的提言を行う。プロジェクト課題としては、例えば「スマートシティ評価」、エネルギー産業、「開発途上国向けビジネス」、「都市再生」、「農林水産業」等がある。第3に、統計的手法による分析を強調し、講義と応用を行う。

授業の計画:

本システムは学年途中の修正ができないため、最新版は次を参照してください。

1. KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。
2. また、KBSならびに他研究科の学生は講師のHPを参照ください。
<http://labs.kbs.keio.ac.jp/anegawalab/index.html>

成績評価方法:

評価基準: 授業参加, フォーラム参加, プロジェクト・レポート

担当教員から履修者へのコメント:

グランド・デザイン・プロジェクト1, 2は「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムに参加する学生で、単位履修する学生のために提供する。本体プログラムについては、HPを参照のこと。

http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand_Design_Project/index2.html

本プログラムの過去の配信記録

<http://www.ustream.tv/channel/keio-grand-design/videos>

質問・相談:

本科目ならびにブランド・デザイン策定の融合型教育は文章による説明だけではわかりにくい。このため、オリエンテーションを5から6月に数回、さらに10月に数回行うので参加してほしい(日程と場所はHP参照 <http://labs.kbs.keio.ac.jp/aneawalab/index.html>)。また、フォーラムについては、プレイベントとして、2013年3月20日、4月20日、5月11日を予定している(場所は協生館5F, エグゼクティブ・ルーム)。

企業倫理 2単位(3学期)

企業倫理

商学部准教授 梅津 光弘

授業科目の内容:

目的:

この授業では、企業倫理学の概説を行いながら、組織経営における倫理的課題事項、倫理的組織作りの戦略、制度、手法、展開方法などを学ぶ。また個人が仕事や人生に対する哲学的、倫理的な考え方を深め、それと企業理念や価値観、ビジョンなどを確認する場にしていきたい。

この分野は哲学的な方法論から実務直結の話題まで多岐に渡るが、不祥事などを起こさないコンプライアンス的側面、善悪の判断についてジレンマや課題がある領域、さらにはCSR論との関係で積極的な社会貢献やCRM,SRI,BOPなどの様々な手法の分野をカバーすることが可能である。

授業は基本的に講義とケース・メソッドを併用して進めていく。最初の時間に参加者の問題意識と要望を聞きながら、私の扱える範囲内での調整を行いながら進めていきたい。哲学や倫理学を履修したことのない諸君も、このコースでは簡潔に規範倫理学の諸説を学べるので、予備知識は必要としない。

教育方法:

「ハーバードのケースで学ぶ企業倫理」リン・シャープ・ペイン著(慶應義塾大学出版会)を使用し、誠実な組織を構築する方法、戦略と倫理との関係、企業倫理の制度化とその管理・運営、を中心に講義を進めていく。ただし参加者の要望があれば教科書以外のショートケースを使用する可能性がある。最初の時間にその点の確認を行いたい。

授業の計画:

[主題] [ケース]

- 第1回
イントロダクション
- 第2回
組織における倫理の役割……………インスピーチ社
- 第3回
顧客関連の企業倫理……………シアーズ自動車センター
- 第4回
コンプライアンス型の企業倫理……………マーティン・マリエッタ社
- 第5回
価値共有型の企業倫理……………AES社の蜂の巣システム
- 第6回
企業と情報倫理……………ロータス・マーケットプレス
- 第7回
製品の安全性……………ダウ・コーニング社
- 第8回
多国籍企業の倫理問題……………リーヴァイス社
- 第9回
日本企業に於ける倫理的課題事項(1)……………TBA
- 第10回
日本企業に於ける倫理的課題事項(2)……………TBA
- 第11回
日本に於ける専門職の倫理的課題事項……………TBA
- 第12回
企業倫理・コンプライアンスの制度化
- 第13回
企業倫理CSRの制度化と実践
- 第14回
参加者のレポート発表
- 第15回

総括と展望

成績評価方法:

- ・試験
(理論紹介が終わった時点で。形式は後日指示) 30%
- ・期末レポート
(具体的なケースとその分析、政策提言、A4×10) 50%
- ・クラス参加度 20%

テキスト(教科書):

「ハーバードのケースで学ぶ企業倫理」リン・S. ペイン著(慶大出版会, 1999)
「ビジネスの倫理学」梅津光弘著(丸善 2002)

参考書:

「企業倫理と経営社会政策過程」E. エプスタイン著(東京:文真堂, 1996)
「企業倫理」D. ステュアート著 企業倫理研究G訳(東京:白桃書房 2001)
「企業倫理学2」T. ビーチャム, N. ボウイ著 梅津光弘監訳(京都:晃洋書房, 2001)
Thomas Donaldson, Pat Werhane. Ethical Issues in Business. Prentice Hall, 1994.
Tom Beauchamp, Norman Bowie. Ethical Theory and Business. Prentice Hall, 1993.

このほか参考資料は教室でその都度紹介する。

担当教員から履修者へのコメント:

競争戦略論 2単位(3学期)

教授 小林 喜一郎

授業科目の内容:

※科目のねらい・目標: ケースメソッドのみでは不足しがちな企業及び事業戦略に関する「理論」を学ぶ。これによってMBAとしてふさわしい理論ベースを習得すると同時に、理論を現実へ適応(一般化)するための応用力を養う。

※授業で扱う領域: Strategic Managementに関わる理論全般。戦略の基礎理論のみならず、特にイノベーション・マネジメントに関する理論も網羅する。

※履修者に対する担当教員からの要望: 主に理論を学ぶ授業ではあるが、現実への適応も含めインタラクティブな授業を目指している。積極的な意見開示やプレゼンテーションに参加していただきたい。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

- ①発表とクラス貢献度、②期末レポート、③グループ発表成果、④出席

テキスト(教科書):

①ビジャイ・ゴビンダラジャン&クリス・トリンブル著「リバース・イノベーション」(ダイヤモンド)、②チャン・キム&モボルニユ著「ブルーオーシャン戦略」(ランダムハウス講談社)、③ジェフリー・ムーア著「ライフサイクルイノベーション」(翔泳社)

参考書:

*興味のある方への関連図書として、バーゲルマン、ウィールライト、クリステンセン「技術と戦略のイノベーションマネジメント」(翔泳社) …担当教員ケースも収録

担当教員から履修者へのコメント:

関連する科目: 総合経営(基礎科目)・戦略コンサルティング講座(小林・岡田)・経営戦略におけるアントルプレナーシップ(須賀: IP)

経営革新 2単位(3学期)

小竹 林二 KBS チェアシップ基金寄附講座

特任教授(非常勤) 網野 俊賢

授業科目の内容:

ますます激化する国際競争の中で、企業は常に経営に於ける革新性を維持しながら発展し、あるいはサバイブして行くことが求められています。

本科目では日本を代表する多国籍企業の一つであるホンダを取り上げ、創業以来さまざまな局面で革新性を発揮して来た事例を、同社

の業務分野を横断的に見るケース・スタディーとして捉えようとするものです。

企業がどのような過程で経営革新を生み出すのかを知る為には、その企業の経営哲学や文化・価値観などを深く理解し、さらに企業活動のあらゆる領域で革新的なビジネスモデルを実現させて行くエネルギーの強さと源泉、そのプロセスなどを知る必要があります。本科目ではホンダのさまざまな業務分野、特に北米、欧州、アジアなどの海外展開で活躍し、豊富な経験を持つ人材を毎回の講師として招き、実例をベースに経営革新が起きる過程を学ぼうとします。

授業に当たっては各講師からのプレゼンテーションを題材としながら履修生からの質問や、各自が持つ実務体験を踏まえたコメントなどを歓迎し、双方向のやりとりを尊重します。また講師の体験を反映して執筆されたケースについての討論、履修生のグループ発表に加え、数人の講師を交えたパネル討議も行うことによって立体的な授業の展開を図りたいと思っています。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

成績評価方法:

期末提出論文 70点 授業貢献度 30点(詳細は第1回授業で説明)

テキスト(教科書):

なし

参考書:

授業の都度説明

経営戦略におけるアントレプレナーシップ 2単位(3学期)

実戦的な起業とベンチャー論をケースとビジネスプラン作成中心に行うIP(国際プログラム)。講師兩名は、各々タリーズコーヒージャパン(株)の前取締役副会長と(株)ゴルフダイジェスト・オンラインの元COOでゼロからの起業・上場・exit経験有する。(兩名共Harvard MBA,三井物産出身)。

講義は全て英語だが、試験答案は日本語で回答可。

IPでの多国籍のMBAの学生と共にケース(日本関連の

Harvard and Stanford Business Schools等出版のベンチャーのケースも多数使用)・ビジネスプラン発表審査を行うので、起業希望者及び外資系企業就職予定者・国際業務担当予定者・海外勤務/留学予定者にも受講を強く奨めます。

講師 須賀 等

講師 玉置 浩伸

授業科目の内容:

The objective of the course is to learn management theories of entrepreneurship and to nurture future entrepreneurs, who are also expected to easily cross national borders in their venture business activities related to Japan. Venture business and entrepreneurship constitute the very foundation of modern economies anywhere in the world. In Japan,

present-day global companies such as Toyota, Sony, Honda, Panasonic, Kyocera, Mitsui, and Mitsubishi all started out as tiny ventures. However, present-day Japan is losing entrepreneurial spirit and lags far behind other OECD nations in terms of individual aspirations and track record of starting and cultivating new companies, which is particularly true in the last few years when the number of IPO's has declined dramatically and many major venture capitals are suffering from large losses in Japan. After the March 11 East Japan Great Earthquakes and Tsunami in 2011, plus lingering radiation threat from the ailing Fukushima Daiichi Nuclear plant disaster in the Southern Tohoku and Kanto regions, Japan will definitely have to overhaul its entire energy, industrial and economic structure and must see more ambitious and long-lasting ventures popping up throughout the country to be started by either Japanese or non-Japanese alike, which seems to

have finally started in LH 2012.

This is in stark contrast to the eco-system of Silicon Valley, where successful ventures and industrial frontiers are constantly emerging. It is about the time that Japan, presently the third largest economy in the world, started to re-engineer its venture eco-system and exciting new companies will once again emerge and grow, by having substantial exposure to cross-border entrepreneurial spirits and activities, and in which many non-Japanese entrepreneur-minded students may find extremely lucrative business opportunities. During the semester, students will experience the 'real world' of entrepreneurship through eyes and true

stories of entrepreneurs of highly successful fastgrowing cross-boarder venture businesses who will visit our class to give their real live stories. Students will also be exposed to a wide range of theories and conceptual frameworks and will learn practical skills through the analysis of case studies, many of

which are still on-going. Groups ("Companies") of students will be formed and will participate in a business plan competition to be waged toward the end of the semester.

The presentation will be judged by 'real world' entrepreneurs and the instructor. In the event that there emerges an exceptionally attractive plan, students may have an opportunity to bring your dream to the real world through the instructor's venture capital network.

Optional Assignment: By Week3 or before, you may prepare and submit your own "business idea" on a ?-page sheet for use in the business plan contest as one of the participating themes. Successful submissions will be used as one of the themes for the final project.

Students who submitted such themes will probably be asked to be the imaginary president and CEO of each "company," and will later recruit other officers and employees from the class by advertising each company's outline, mission statement, goals, etc. to the rest of the class. The process of advertising and recruiting the officers/employees will be informed later.

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照ください。

講義は全て英語だが、試験答案は日本語で回答可。

IPでの多国籍のMBAの学生と共にケース(日本関連の

Harvard及びStanford各Business School等出版のベンチャーのケースも多数使用)・ビジネスプラン発表審査を行うので、起業希望者及び外資系企業就職予定者・国際業務担当予定者・海外勤務/留学予定者にも受講を強く奨めます。講師兩名は、各々タリーズコーヒージャパン(株)の前取締役副会長と(株)ゴルフダイジェスト・オンラインの元COOでゼロからの起業・上場・exit経験有する。(兩名共Harvard MBA,三井物産出身)。

成績評価方法:

Student performance will be measured in consideration of his or her achievement of the course Objectives listed below, in the following three areas: 40%: Midterm Examination; 40%:

Team presentation (business plans to be prepared by groups throughout the semester and to be presented and judged/graded in the final session); and 20%: Class participation (intelligent contributions during class).

テキスト(教科書):

W. D. Bygrave and Zacharakis, A, ed. The Portable MBA in Entrepreneurship, 4e. New Jersey: Wiley.

Various Cases published by Harvard and Stanford Business Schools and others related to entrepreneurship, many of which cover the companies originated in Japan.

参考書:

Tim Clark and Kay, Carl. Saying yes to Japan. New York: Vertical. (Japanese translation"儲かる国ニッポン" by 日本経済新聞社 also available).

<Reference books in Japanese>

松田公太. 全ては一杯のコーヒーから ("Everything has started with a cup of coffee"). Tokyo: 新潮文庫

ケースで学ぶ実戦・起業塾("Case Studies: Starting and Running Your Own Venture) 木谷哲夫編著. by 日本経済新聞出版社 2010)ISBN: 978-4532316365

<http://bit.ly/Nm7xUs>

志は起業を呼ぶ シリアルアントレプレナーの終わりなき挑戦 (玉置浩伸著 by ファーストプレス 2006)ISBN978-4-903241-20-3

<http://www.7netshopping.jp/books/detail/-/accd/1102305924/subno/1>

担当教員から履修者へのコメント:

Students are encouraged to have generally good interest in Entrepreneurship, whether they plan to start a business by themselves in future or not, to participate in this course.

Also, students are expected to have completed all reading assignments (the case, notes, and textbook reading) BEFORE coming to the class and have already familiarized themselves with the concepts written there. We will rely heavily on case method teaching and learning techniques

developed at Harvard Business School. Generally, readings from the textbook and notes ARE NOT taught in class. In order to maximize the learning effect of the case study experience, students are expected to spend AT LEAST TWO HOURS for each case/class preparation. Knowledge in accounting, finance, marketing, or business strategy are helpful but not required.

アントルプレナー戦略 2単位(3学期)

教授 高木 晴夫

授業科目の内容:

本科目は、MBA学生が卒業後に起業を目指すとき、いかなる起業家(アントルプレナー)たらんとし、いかなる起業家精神(アントルプレナーシップ)を持つべきか、につき学ぶ場を提供することにある。シュンペーターの言葉を借りるでもなく、経済活動の革新の源泉は起業家であり、起業家精神である。KBSとして本科目を提供することは、我が国の経済活動の革新を進めるうえに不可欠である。本科目は、1授業あたり2コマ連続でおこない、合計9会合の授業とし、総数で18セッションである。毎会合では、ケースのグループ討議とクラス討議を行う。一部、外部講師の講演を予定する。

授業の計画:

KBS在校生ページに掲載するコースアウトラインを参照してください。

成績評価方法:

成績評価はクラス発言貢献度と期末レポートによる。

マーケティング理論特論 2単位(春学期)

教授 井上 哲浩

授業科目の内容:

ねらい: 科学としての「マーケティング」の諸側面を明らかに、科学として健全な発展を「マーケティング」が達成するのに必要な理論的側面を解明する。

主な内容: まず科学哲学の側面から「マーケティング」を考察し、様々な立場のDisciplineを検討する。そして説明性、因果関係、科学的法則、そして「マーケティング」一般理論の構築を目指す。次に、測定、モデリング、解析の同時性を明らかにし、最後に、「マーケティング」科学の一側面に注目しリサーチ・デザインの健全な設定を試みる。

研究方法として、理論文献のレビューと討論、レクチャー、ケース演習、シミュレーション、ゲーム理論、統計的工学的モデリングを用いる。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

意思決定特論 2単位(春学期)

教授 大林 厚臣

授業科目の内容:

企業と個人の行動を、ミクロ経済学とゲーム理論の視点から分析する。参加者はミクロ経済理論とゲーム理論についての基本的な知識を持っていることを要求される。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

会計管理特論 2単位(春学期)

教授 山根 節

授業科目の内容:

ねらい: このコースでは、会計という情報手段を使って行われる経営管理のすべての局面(つまり会計管理)を研究対象とする。つまり対外的なディスクロージャーのあり方だけでなく、経営戦略立案や戦略実行のためのマネジメント・コントロールのシステムおよびプロセスに至るまで、理論的・実証的かつ総合的な研究活動を行う。

主な内容: 具体的には財務会計論、経営分析論、管理会計論、さらに経営戦略論などの分野にわたり、受講者の希望を勘案して内容を決定する。受講希望者は事前に担当者と面接することが望ましい。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

会計理論特論 2単位(春学期)

教授 太田 康広

授業科目の内容:

このコースでは、近年の分析的会計研究の重要論文をサーベイするとともに、その読解に必要とされる数学的知識・経済学的知識を身につけることを目的とする。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

企業戦略特論 2単位(春学期)

教授 磯辺 剛彦

授業科目の内容:

ねらい: 企業戦略の理論的背景を習得した上で、理論展開の基本的枠組みを整理し、これからの企業戦略に関する新たな仮説・理論の構築を行なう為に十分な能力を養う。

主な内容: 企業戦略を、経営者が競争環境の中で、事業分野の決定→経営資産の調達→経営資産の配分→経営資産の資源化という一連の経営活動を行い、それぞれの事業分野において競争優位を築き、より高いレベルの目標に到達するプロセスと捉える。このプロセスのそれぞれの段階について、理論研究のレビューを徹底的に行なう。そこで毎回授業では理論書の輪読報告を行なう。これに加え、欧米のジャーナルからリストアップされた80前後の英文論文を毎回4-5本ずつレポート(サマリーと問題提起の含まれたもの)として提出することを求める。履修希望者は履修申告前、必ず担当教員2名にコンタクトすること。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

企業戦略特論 2単位(春学期)

教授 小林 喜一郎

授業科目の内容:

ねらい: 企業戦略の理論的背景を習得した上で、理論展開の基本的枠組みを整理し、これからの企業戦略に関する新たな仮説・理論の構築を行なう為に十分な能力を養う。

主な内容: 企業戦略を、経営者が競争環境の中で、事業分野の決定→経営資産の調達→経営資産の配分→経営資産の資源化という一連の経営活動を行い、それぞれの事業分野において競争優位を築き、より高いレベルの目標に到達するプロセスと捉える。このプロセスのそれぞれの段階について、理論研究のレビューを徹底的に行なう。そこで毎回授業では理論書の輪読報告を行なう。これに加え、欧米のジャーナルからリストアップされた80前後の英文論文を毎回4-5本ずつレポート(サマリーと問題提起の含まれたもの)として提出することを求める。履修希望者は履修申告前、必ず担当教員2名にコンタクトすること。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

計量分析特論 2単位(春学期)

教授 林 高樹

授業科目の内容:

経営学の諸問題に対して、主として定量的アプローチによる解決を図る。教科書および論文の講読と討論を行う。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

産業組織特論 2単位(春学期)

教授 姉川 知史

授業科目の内容:
博士課程の経済学分野として必要になる基本的ミクロ経済理論を復習した後、産業組織論の理論と実証について概説する。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

消費者行動特論 2単位(春学期)

教授 池尾 恭一

授業科目の内容:
ねらい: 消費者行動分析の既存理論体系について十分な理解を図るとともに、それらをどのようにマーケティング戦略立案に結びつけるかについての枠組を検討する。

主な内容: 消費者行動理論文献の体系的サーベイ、消費者行動調査の設計と分析、消費者行動分析に基づくマーケティング戦略の構築

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

生産管理特論 2単位(春学期)

教授 河野 宏和

授業科目の内容:
ねらい: 製品やサービスを供給する活動を改善していくための考え方と方法論について、主に生産管理手法の理論面から学び習得すると同時に、それらの考え方を企業経営の実務に反映するための実践的な方法論について研究する。

主な内容: 従来の生産管理の理論は、主として工場での生産活動を対象として研究され発展してきた。しかし、経済活動においていわゆるサービス産業化やソフト化が進展するにつれて、供給活動を分析する理論体系を、間接部門や一次産業などを含むより広い範囲に適用する必要性が高まっている。本科目では、これまでの生産管理の理論を体系的に検討した後、企業経営を取り巻く環境条件の変化に合わせた改善理論のフレームワークと実践方法の変遷について、文献研究、事例研究、フィールド調査などを通じて多角的に研究する。対象とする業種など細部の進め方は、受講生の特性と希望に応じて決定する。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

生産経営特論 2単位(春学期)

教授 坂爪 裕

授業科目の内容:
本講では、工場における生産方式と管理方法の歴史研究、ならびに工場労働における文化的側面に関する記述研究を辿りながら、社会科学として生産政策分野の研究を行う際に最低限必要となる基礎的概念の整理を行う。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

組織行動特論 2単位(春学期)

教授 高木 晴夫

授業科目の内容:
ねらい: 企業経営における組織と人間のマネジメントについて、組織行動学における今日までの理論的・実践的な研究成果を学習する。同時に、組織行動学と深く関係する諸人間/社会科学(社会心理学、産業心理学、認知科学、社会学、文化人類学など)での関連する重要理論についても学習する。

主な内容: 組織行動学の大学院レベルの概論的教科書をまず学習し、そこを起点に、各論を成立させている重要理論の原典を講読する。この時、当然ながら上記の関連諸科学の重要文献も学ぶ。学習においては、理論的内容だけでなく、その形成された背景、データ収集・分析の方法論、理論構築の巧みさなどについても焦点をあてる。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

多国籍組織戦略特論 2単位(春学期)

教授 浅川 和宏

授業科目の内容:
本科目では、多国籍企業をマクロ組織論、戦略論の観点から考察した多くの公刊・未公刊論文の査読演習を通じ、多国籍企業の組織・戦略研究に関する最新の理論・実証研究動向についての理解を深める。尚本科目の履修者は、中級レベルの組織理論、社会科学研究方法論、英語論文読解力を備えていることが望ましい。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
以下の4つを総合して成績を評価する。

1. 毎回のレポート提出物
2. 毎回の発言
3. 期末レポート
4. 期末試験

詳しくは履修者に別途知らせる。

研究方法特論 2単位(春学期)

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:
ねらい: ビジネス・スクールという特徴を持つ大学院での研究に必要な方法を教授する。

- 主な内容:
1. 研究方法論の基礎
 2. 社会科学としての研究のプロセス
 3. 定量的方法
 4. 定性的方法
 5. 複合的方法
 6. 仮説の構築と仮説再構築および理論化と一般化
 7. 研究の倫理的課題

授業の計画:
履修者に別途知らせる。
成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

テキスト(教科書):
履修者の関心領域を勘案して決定する。
参考書:
履修者の関心領域を勘案して決定する。

経営科学特論 2単位(秋学期)

准教授 安道 知寛

授業科目の内容:
計量経済学、統計科学的な観点から、経営に関連する諸問題を検討していく。論文の講読と討論を行ないつつ、社会科学分野において研究活動を遂行するために必要な計量モデリング理論を学ぶ。

授業の計画:
履修者に別途知らせる。

成績評価方法:
履修者に別途知らせる。

経営環境特論 2単位(秋学期)

教授 田中 滋

授業科目の内容:

医療・介護・教育・保育などの分野においては、通常の市場経済機能が必ずしも良い成果を生まない理由について、経済学の観点から根拠を分析する力を身につけます。合わせて、公共財とは違い、民間の組

織も主要な提供者となり、かつ利用者が提供者を選択する準市場が用いられる理由も把握します。その上で、分配の公正をめぐる価値規範からの市場介入と、資源配分を効率化させるために重要な機能を果たす非営利組織の位置づけと役割、および公益セクター独特の連携の重要性を考察していきます。また、このような分野にかかわる政策決定の歴史と現状を学び、そこへの働きかけ方を学ぶことも重視します。

過去にこの特論を受講した卒業生はいずれも上記の理念をふまえ、現実社会で大いに活躍していることが誇りです。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

経営政策特論 2単位(秋学期)

准教授 岡田 正大

授業科目の内容:

各学生の研究テーマに応じ、戦略領域における文論文を選択して購読と議論を行なう。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

産業経済分析特論 2単位(秋学期)

教授 中村 洋

授業科目の内容:

産業組織論の中級レベルの教科書を使って、産業組織論の基本的な考え方の理解、経済学の分析でよく使われる数学的ツールの習得を目指す。具体的な内容は以下の通りである。独占・寡占理論、垂直的・水平的統合、製品差別化、価格戦略、共謀、参入・撤退戦略、情報と戦略的行動、研究開発戦略。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

実証会計特論 2単位(秋学期)

准教授 村上 裕太郎

授業科目の内容:

本科目では、トップ・ジャーナルに掲載された会計の実証論文をサーベイする。

履修要件: 会計学、ミクロ経済学、および計量経済学の基礎的知識を必要とする

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

人的資源特論 2単位(秋学期)

教授 高木 晴夫

授業科目の内容:

ねらい: 企業経営における人的資源のマネジメントについて、今日までの理論的・実践的な研究成果を学習する。人的資源管理論と呼ばれるこの分野は、従来より我が国では人事管理論ないし労務管理論と呼ばれていたが、米国における1980年代からのHuman

Resources Managementの形成により、我が国でも人的資源管理論と呼ばれるようになった。授業では、このような歴史的経緯を視野に入れつつ、人的資源管理論と深く関係する心理学、社会学、経済学などでの重要理論についても学習する。

主な内容: 人的資源管理論の大学院レベルの概論的教科書をまず学習し、そこを始点に、各論を成立させている重要理論の原典を講読する。この時、当然ながら上記の関連科学の重要文献も学ぶ。学習においては、理論的内容だけでなく、企業組織での実態がどうかにも多くの時間を割く。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

組織心理学特論 2単位(秋学期)

教授 渡辺 直登

授業科目の内容:

組織行動研究の最先端の理論、研究トピック、方法論等について学ぶ。各自の研究テーマを深く掘り下げ、研究を行ない、論文としてまとめる方向性で指導を行なう。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

テキスト(教科書):

履修者の関心領域を勘案して決定する。

組織戦略特論 2単位(秋学期)

教授 清水 勝彦

授業科目の内容:

経営戦略、組織論の観点から、企業の行動および業績に影響を与える要因の分析を行う。経済学的視点だけでなく、心理学、社会学的な要因も考慮しながら、より広い視野から問題意識を深めることを重視する。

主な内容:

1. 経営戦略論の研究
2. 組織理論の研究
3. 企業革新の理論研究
4. 実証分析

実証研究では基本的に日本企業をとり上げ、ここから帰納的な理論構築を目指す。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

流通経営特論 2単位(秋学期)

教授 余田 拓郎

授業科目の内容:

ねらい: 戦後の流通政策は革新的小売業の登場、激変する流通構造の変化、流通企業の経営革新に対応し、後追的に規制あるいは促進を図るべく展開されてきた。その流通政策を分析し、それによって流通構造の変化と流通経営の革新を検証してみたい。あわせて現在の情報化の展開、交通インフラの整備、および消費のサービス志向などを考慮し、流通経営に関する理論的枠組みの構築を図る。

主な内容: 文献に基づいて戦後の流通政策の背景を理解し、流通機構に関する競争政策、保護政策、近代化政策、物流政策、卸商業政策、大規模小売店舗法、地域商業振興と街づくり三法、などを実際の流通業経営と照らし合わせながら分析していく。そして、新たな内外的環境条件を本に新たな理論的枠組みを構築したい。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。

ケースメソッド教授法特論 2単位(秋学期)

教授 高木 晴夫
特任准教授 竹内 伸一

授業科目の内容:

KBSはケースメソッドを授業方法の中核に位置づけているわが国唯一の教育機関である。したがって博士課程の学生が卒業して教壇に立ったとき、ごく自然にケースメソッドで授業を行うことが期待される。

本科目ではこれに備えて、ケースメソッド授業を準備し、運営するための、基本的なスキル、知識、マインドを身につける機会を提供する。

授業の各セッションでは、短い講義は行うが、「ケースメソッドをケースメソッドで教える」ことを主眼としているため、履修者が交代で講師役を務める「ディスカッションリード演習」を授業の中心に置く。この演習では、ケースメソッド授業の教室で生じる諸問題を取り上げたケースを多用する。したがって、履修者にとっての本科目での学びは、1) 自ら講師役にチャレンジして学ぶ、2) 他者の授業運営ぶりから学ぶ、3) 演習で用いるケースについて積極的に議論することで学ぶ、の3つの側面を持つ。チャレンジしてもらえる人数に限りはあるが、履修者は積極的に1)に挙げた講師役に立候補されたい。

授業で扱う主なテーマは、「討議から学ぶことの価値を考える」「参加者を理解する」「学びの共同体を築く」など。これらのテーマについてクラス全員で議論を深めていくことで、履修者一人一人にとっての拠

りどころとなる「ケースメソッド教授法」を確立させる。

なお、本科目は4日間に渡って開講されるが、それに続いて3日間、KBSイシューセミナーとして授業が続く。慶應義塾の大学院生はこれに引き続き参加することができるが、本科目の単位は最初の4日間を

履修することで付与される。

授業の計画:

履修者に別途知らせる。

成績評価方法:

履修者に別途知らせる。